別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項	記　入　欄								備　考
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ 設置者	ｺｸﾘﾂﾀﾞｲｶﾞｸﾎｳｼﾞﾝ　ｸﾞﾝﾏﾀﾞｲｶﾞｸ 国立大学法人　群馬大学								
フリガナ 大学の名称	ｸﾞﾝﾏﾀﾞｲｶﾞｸﾀﾞｲｶﾞｸｲﾝ 群馬大学大学院（Graduate school of Gunma University）								
大学本部の位置	群馬県前橋市荒牧町四丁目２番地								
大学の目的	群馬大学は，上毛三山に抱かれた明るく豊かな自然風土の下，昭和二十四年に新制の国立大学として誕生した。それ以後，北関東を代表する総合大学として，有為な人材を育成するとともに，真理と平和を希求し，深遠な学理とその応用を考究し，世界の繁栄と人類の福祉に貢献することを目的として，その社会的使命を果たしてきた。 二十世紀後半は，科学技術の飛躍的発展と経済の繁栄に象徴される時代であり，同時に，人類の生存と繁栄の根幹に関わる諸問題が地球的規模において顕在化した時代でもあった。この中にあって，本学は，教育学，社会情報学，医学，工学の各分野における教育及び研究を通して，真摯に時代の要請に応えてきた。 ここにおいて，群馬大学は，二十一世紀を多面的かつ総合的に展望し，地球規模の多様なニーズに応えるため，新しい時代の教育及び研究の担い手として，次の基本理念を宣言する。 １　新しい困難な諸課題に意欲的，創造的に取り組むことができ，幅広い国際的視野を備え，かつ人間の尊厳の理念に立脚して社会で活躍できる人材を育成する。 ２　教育及び研究活動を世界的水準に高めるため，国内外の教育研究機関と連携し，世界の英知と科学・技術の粋を集め，常に切磋琢磨し，最先端の創造的な学術研究を推進する。 ３　教育及び研究の一層の活性化と個性化を実現するため，大学構成員の自主性，自律性を尊重し，学問の自由とその制度的保障である大学の自治を確立するとともに，それに対する大学としての厳しい自己責任を認識し，開かれた大学として不断の意識改革に務める。								
新設学部等の目的	複雑・多様化する学校教育の課題に対応しうる高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員を養成することに加え，教科教育実践や特別支援教育実践に係る学修ニーズに応え，地域の学校教育を支える地の拠点を構築する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次人	人		年　月 第　年次		
	教育学研究科 [The Graduate School of Education] 教育実践高度化専攻 [Major in Advanced Practice for School Education]	2	20	－	40	教職修士（専門職） [Master of Education (Professional Degree)]	令和2年4月 第1年次	群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地	【基礎となる学部】 共同教育学部学校教育教員養成課程 14条特例の実施
	計		20	－	40				
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	共同教育学部学校教育教員養成課程　（190）（平成31年4月事前伺い） 教育学部学校教育教員養成課程（廃止）（△220）※令和2年4月学生募集停止 教育学研究科（修士課程）（廃止） 障害児教育専攻　（△ 3）※令和2年4月学生募集停止 教科教育実践専攻　（△20）※令和2年4月学生募集停止 教育学研究科（専門職学位課程） 教職リーダー専攻（廃止）　（△16）※令和2年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
	教育学研究科 教育実践高度化専攻	61科目	14科目	7科目	82科目		46単位		

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
			人	人	人	人	人	人	人	
	新設分	教育学研究科（専門職学位課程） 教育実践高度化専攻	21 (21)	14 (14)	3 (3)	0 (0)	38 (38)	0 (0)	52 (52)	
		共同教育学部　学校教育教員養成課程	35 (35)	43 (43)	6 (6)	0 (0)	84 (84)	0 (0)	115 (115)	平成31年4月事前伺い
		計	33 (33)	36 (36)	5 (5)	0 (0)	74 (74)	0 (0)	－ (－)	
	既設分	社会情報学部　社会情報学科	14 (14)	14 (14)	0 (0)	2 (2)	30 (30)	1 (1)	185 (185)	
		医学部　医学科	41 (41)	29 (29)	23 (23)	66 (66)	159 (159)	0 (0)	283 (283)	
		医学部　保健学科	31 (31)	13 (13)	9 (9)	29 (29)	82 (82)	0 (0)	225 (225)	
		理工学部（昼間コース） 化学・生物化学科	23 (23)	20 (20)	0 (0)	14 (14)	57 (57)	0 (0)	113 (113)	
		理工学部（昼間コース） 機械知能システム理工学科	10 (10)	16 (16)	0 (0)	7 (7)	33 (33)	0 (0)	131 (131)	
		理工学部（昼間コース） 環境創生理工学科	9 (9)	13 (13)	0 (0)	7 (7)	29 (29)	0 (0)	134 (134)	
		理工学部（昼間コース） 電子情報理工学科	13 (13)	23 (23)	1 (1)	9 (9)	46 (46)	1 (1)	129 (129)	
		理工学部（夜間主コース） 総合理工学科	18 (18)	6 (6)	1 (1)	3 (3)	28 (28)	0 (0)	94 (94)	
		社会情報学研究科（修士課程） 社会情報学専攻	14 (14)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	28 (28)	0 (0)	23 (23)	
		医学系研究科（修士課程） 生命医科学専攻	42 (42)	29 (29)	20 (20)	16 (16)	107 (107)	0 (0)	99 (99)	
		医学系研究科（博士課程） 医科学専攻	55 (55)	39 (39)	25 (25)	59 (59)	178 (178)	0 (0)	190 (190)	
		保健学研究科（博士前期課程） 保健学専攻	31 (31)	13 (13)	9 (9)	29 (29)	82 (82)	0 (0)	121 (121)	
		保健学研究科（博士後期課程） 保健学専攻	31 (31)	13 (13)	9 (9)	12 (12)	65 (65)	0 (0)	9 (9)	
		理工学府（博士前期課程） 理工学専攻	73 (73)	78 (78)	0 (0)	0 (0)	151 (151)	0 (0)	101 (101)	
		理工学府（博士後期課程） 理工学専攻	73 (73)	78 (78)	0 (0)	0 (0)	151 (151)	0 (0)	14 (14)	
		医学部附属病院	1 (1)	11 (11)	34 (34)	147 (147)	193 (193)	0 (0)	0 0	
		生体調節研究所	9 (9)	7 (7)	1 (1)	16 (16)	33 (33)	0 (0)	0 (0)	
		総合情報メディアセンター	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		大学教育・学生支援機構	3 (3)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	
		研究・産学連携推進機構	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
		重粒子線医学推進機構	3 (3)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	
		国際センター	1 (1)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
		数理データ科学教育研究センター	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
		食健康科学教育研究センター	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		男女共同参画推進室	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		未来先端研究機構	1 (1)	2 (2)	1 (1)	4 (4)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	
		計	186 (186)	165 (165)	82 (82)	319 (319)	752 (752)	2 (2)	－ (－)	
	合計		219 (219)	201 (201)	87 (87)	319 (319)	826 (826)	2 (2)	－ (－)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
		人	人	人
	事務職員	342 (342)	330 (330)	672 (672)
	技術職員	1,137 (1,137)	171 (171)	1,308 (1,308)
	図書館専門職員	6 (6)	0 (0)	6 (6)
	その他の職員	1 (1)	521 (521)	522 (522)
	計	1,486 (1,486)	1,022 (1,022)	2,508 (2,508)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	校舎敷地	383,206㎡	0 ㎡	0 ㎡	383,206㎡
	運動場用地	93,558㎡	0 ㎡	0 ㎡	93,558㎡
	小計	476,764㎡	0 ㎡	0 ㎡	476,764㎡
	その他	155,270㎡	0 ㎡	0 ㎡	155,270㎡
	合計	632,034㎡	0 ㎡	0 ㎡	632,034㎡

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	172,682㎡ (172,682㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	172,682㎡ (172,682㎡)

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	90 室	29 室	952 室	6 室 (補助職員 4人)	2 室 (補助職員 1人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	教育学研究科	83 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	教育学研究科	614,229〔179,407〕 (614,229〔179,407〕)	15,617〔4,610〕 (15,617〔4,610〕)	6,858〔5,579〕 (6,858〔5,579〕)	4,695 (4,695)	7,937 (7,937)	25 (25)	学部単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	614,229〔179,407〕 (614,229〔179,407〕)	15,617〔4,610〕 (15,617〔4,610〕)	6,858〔5,579〕 (6,858〔5,579〕)	4,695 (4,695)	7,937 (7,937)	25 (25)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	9,750㎡	927席	778,945冊	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	5,713㎡	野球場2面，陸上競技場1面，サッカー・ラグビー場2面，テニスコート12面	大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		－	－	－	－	－	－	国費による
	共同研究費等		－	－	－	－	－	－	
	図書購入費	－	－	－	－	－	－	－	
	設備購入費	－	－	－	－	－	－	－	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	－

大学の名称　群馬大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍			
教育学部 学校教育教員養成課程	4	220	－	880	学士(教育学)	1.05	平成11年度	群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地	
社会情報学部 社会情報学科	4	100	3年次 20	440	学士 (社会情報学)	1.03	平成28年度	同上	
情報行動学科	4	－	3年次 －	－	学士 (社会情報学)	－	平成18年度		平成28年より学生募集停止
情報社会科学科	4	－	3年次 －	－	学士 (社会情報学)	－	平成18年度		平成28年より学生募集停止

既設大学等の状況	医学部			2年次					群馬県前橋市昭和町三丁目39番22号	
	医学科	6	108	15	723	学士(医学)	1.00	昭和24年度		
				3年次						
	保健学科	4	160	10	660	学士(看護学) (保健学)	1.00	平成8年度		
	理工学部								群馬県桐生市天神町一丁目5番1号	
	(昼間コース)									
	化学・生物化学科	4	160		640	学士(理工学)	1.03	平成25年度		
	機械知能システム理工学科	4	110	3年次	440	学士(理工学)	1.07	平成25年度		
	環境創生理工学科	4	90	学科共通 30	360	学士(理工学)	1.02	平成25年度		
	電子情報理工学科	4	120		480	学士(理工学)	1.04	平成25年度		
					学科共通 60					
	(夜間主コース)									
	総合理工学科	4	30	-	120	学士(理工学)	1.03	平成25年度		
	工学部								同上	平成25年より学生募集停止
	(昼間コース)									
	機械システム工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成1年度		
	生産システム工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成19年度		
	社会環境デザイン工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成19年度		
	(夜間主コース)									
	生産システム工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成19年度		
	教育学研究科								群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地	
	〈修士課程〉									
	教科教育実践専攻	2	20	-	40	修士(教育学)	0.92	平成20年度		
	障害児教育専攻	2	3	-	6	修士(教育学)	1.16	平成18年度		
	〈専門職学位課程〉									
	教職リーダー専攻	2	16	-	32	教職修士 (専門職)	0.84	平成20年度		
	社会情報学研究科								同上	
	〈修士課程〉									
	社会情報学専攻	2	14	-	28	修士 (社会情報学)	0.56	平成10年度		
	医学系研究科								群馬県前橋市昭和町三丁目39番22号	
	〈修士課程〉									
	生命医科学専攻	2	15	-	30	修士 (生命医科学)	0.40	平成19年度		
	〈博士課程〉									
	医科学専攻	4	57	-	228	博士(医学)	0.90	平成15年度		
	保健学研究科								同上	
	〈博士前期課程〉									
	保健学専攻	2	50	-	100	修士(保健学)	0.89	平成23年度		
	〈博士後期課程〉									
	保健学専攻	3	10	-	30	博士(保健学)	1.13	平成23年度		
	理工学府								群馬県桐生市天神町一丁目5番1号	
	〈博士前期課程〉									
	理工学専攻	2	300	-	600	修士(理工学)	1.06	平成25年度		
	〈博士後期課程〉									
	理工学専攻	3	39	-	117	博士(理工学)	0.58	平成25年度		
	工学研究科								同上	平成25年より学生募集停止
	〈博士後期課程〉									
	工学専攻	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成19年度		

附属施設の概要	名　　称：群馬大学医学部附属病院 目　　的：診療を通じて医学の教育及び研究の向上を図る 所 在 地：前橋市昭和町三丁目39番22号 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：建物92,547㎡	
	名　　称：医学系研究科附属生物資源センター 目　　的：実験動物を用いた研究教育の材料や環境の提供 所 在 地：前橋市昭和町三丁目39番22号 設置年月：平成15年4月 規 模 等：建物4,986㎡	
	名　　称：医学系研究科附属薬剤耐性菌実験施設 目　　的：細菌が薬剤に対して耐性を獲得する仕組みの研究 所 在 地：前橋市昭和町三丁目39番22号 設置年月：平成15年4月 規 模 等：建物251㎡	
	名　　称：教育学部附属学校教育臨床総合センター 目　　的：学校現場の臨床的な取り組みや教員養成の方法の改善策の構築等 所 在 地：群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地 設置年月：平成13年4月 規 模 等：建物228㎡	
	名　　称：教育学部附属小学校 目　　的：初等普通教育を施し，かつ小学校教育の理論及び実際に関する研究並びに実証に寄与すると共に，教育学部学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。 所 在 地：群馬県前橋市若宮町2-8-1 設置年月：昭和26年4月 規 模 等：土地29,753㎡（附属特別支援学校と共有），建物8,365㎡	
	名　　称：教育学部附属中学校 目　　的：中等普通教育を施し，かつ中学校教育の理論及び実際に関する研究並びに実証に寄与すると共に，教育学部学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。 所 在 地：群馬県前橋市上沖町612 設置年月：昭和26年4月 規 模 等：土地37,430㎡，建物6,700㎡	
	名　　称：教育学部附属特別支援学校 目　　的：知的障害者に対して，小学校，中学校又は高等学校に準ずる教育を施し，あわせてその欠陥を補うために必要な知識技能を授け，かつ教育の理論及び実際に関する研究並びに実証に寄与すると共に，教育学部学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。 所 在 地：群馬県前橋市若宮町2-8-1 設置年月：昭和54年4月 規 模 等：土地29,753㎡（附属小学校と共有），建物4,008㎡	
	名　　称：教育学部附属幼稚園 目　　的：幼児を保育し，適当な環境を与えてその発達を助長させると共に，幼児の保育に関する研究及び教育学部学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。 所 在 地：群馬県前橋市若宮町2-5-3 設置年月：昭和26年4月 規 模 等：土地5,150㎡，建物978㎡	

国立大学法人群馬大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学定員	編入学定員	収容定員
群馬大学			
教育学部			
学校教育教員養成課程	220	－	880
社会情報学部			
社会情報学科	100	3年次 20	440
医学部			
医学科	108	2年次 15	723
保健学科	160	3年次 10	660
理工学部			
（昼間コース）			
化学・生物化学科	160		640
機械知能システム理工学科	110		440
環境創生理工学科	90		360
電子情報理工学科	120		480
		3年次 学科共通 30	60
（夜間主コース）			
総合理工学科	30	－	120
計	1,098	2年次 15 3年次 60	4,803
群馬大学大学院			
教育学研究科			
〈修士課程〉			
障害児教育専攻	3	－	6
教科教育実践専攻	20	－	40
〈専門職学位課程〉			
教職リーダー専攻	16	－	32
社会情報学研究科			
〈修士課程〉			
社会情報学専攻	14	－	28
医学系研究科			
〈修士課程〉			
生命医科学専攻	15	－	30
〈博士課程〉			
医科学専攻	57	－	228
保健学研究科			
〈博士前期課程〉			
保健学専攻	50	－	100
〈博士後期課程〉			
保健学専攻	10	－	30
理工学府			
〈博士前期課程〉			
理工学専攻	300	－	600
〈博士後期課程〉			
理工学専攻	39	－	117
計	524	－	1,211

平成32年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
群馬大学				
教育学部				平成32年4月学生募集停止
学校教育教員養成課程	0	－	0	
共同教育学部				学部の設置（事前伺い）
学校教育教員養成課程	190	－	760	
社会情報学部				
社会情報学科	100	3年次 20	440	
医学部				
医学科	108	2年次 15	723	
保健学科	160	3年次 10	660	
理工学部				
（昼間コース）				
化学・生物化学科	160		640	
機械知能システム理工学科	110		440	
環境創生理工学科	90		360	
電子情報理工学科	150		600	
		3年次 学科共通 30	60	
（夜間主コース）				
総合理工学科	30	－	120	
計	1,098	2年次 15 3年次 60	4,803	
群馬大学大学院				
教育学研究科				
〈修士課程〉				平成32年4月学生募集停止
障害児教育専攻	0	－	0	
教科教育実践専攻	0	－	0	
〈専門職学位課程〉				
教職リーダー専攻	0	－	0	平成32年4月学生募集停止
教育実践高度化専攻	20		40	研究科の専攻の設置（事前伺い）
社会情報学研究科				
〈修士課程〉				
社会情報学専攻	14	－	28	
医学系研究科				
〈修士課程〉				
生命医科学専攻	15	－	30	
〈博士課程〉				
医科学専攻	57	－	228	
保健学研究科				
〈博士前期課程〉				
保健学専攻	50	－	100	
〈博士後期課程〉				
保健学専攻	10	－	30	
理工学府				
〈博士前期課程〉				
理工学専攻	300	－	600	
〈博士後期課程〉				
理工学専攻	39	－	117	
計	505	－	1,173	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（教育学研究科教育実践高度化専攻（教職リーダーコース））

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通5領域	共通科目	教育課程の編成及び実施	教育課程編成の理論と実践	1前	2			○			1					兼1
		教科等の実践的な指導方法	授業実践分析	1前	2			○			1	1				
		生徒指導及び教育相談	生徒指導の理論と実践	1前	2			○			1					
		学級経営及び学校経営	学校づくりと学級経営	1前	2			○			3	1				
		学校教育と教員の在り方	教員の職能成長と倫理	1前	2			○			1					兼1
	コース科目	教育課程の編成及び実施	カリキュラム開発の理論と実践	1後		2		○			2					
		教科等の実践的な指導方法	学習支援の理論と実践	1前		2		○			2					
			教育評価の理論と実践	1後		2		○			2					
		生徒指導及び教育相談	子ども理解と支援・指導の理論と実践	1前		2		○			1		1			
			特別活動指導の理論と実践	1後		2		○			2					
		学級経営及び学校経営	学校経営の理論と実践	1後		2		○				1				
			学校評価とスクールリーダーシップ	1前		2		○			2					
			地方教育行政の理論と実践	1後		2		○			1	1				
			小計（13科目）	－	10	16	0	－			10	2	1	0	0	兼2
今日的な教育課題	共通科目		多文化共生教育の課題と実践	1前	2			○								兼2
	コース科目		外国につながる児童生徒の指導と支援	1後		2		○								兼2
			学校組織マネジメント演習	1後		2			○		1	1				
			学校危機管理の理論と実際	1後		2		○			1	1				
			小計（4科目）	－	2	6	0	－			1	1	0	0	0	兼3
研究方法			教育アセスメント演習	1後		2			○		1		1			兼1
実習			高度経営力・指導力開発実習Ⅰ	1通	4					○	7	2	1			兼2
			高度経営力・指導力開発実習Ⅱ	2通	6					○	7	2	1			兼2
			小計（2科目）	－	10	0	0	－			7	2	1	0	0	兼2
課題研究			高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ	1前	2				○		7	2	1			兼2
			高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ	1後	2				○		7	2	1			兼2
			高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ	2前	2				○		7	2	1			兼2
			高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ	2後	2				○		7	2	1			兼2
			小計（4科目）	－	8	0	0	－			7	2	1	0	0	兼2
合計（24科目）				－	30	24	0	－			11	2	1	0	0	兼4

学位又は称号	教職修士（専門職）	学位又は学科の分野	教員養成関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
１．共通５領域　※22単位必修 (1)共通科目 教育課程の編成及び実施に関する領域科目　２単位必修 教科等の実践的な指導方法に関する領域科目　２単位必修 生徒指導及び教育相談に関する領域科目　２単位必修 学級経営及び学校経営に関する領域科目　２単位必修 学校教育と教員の在り方に関する領域科目　２単位必修	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

(2) コース科目 下記の①-④の中から３科目６単位必修 ①カリキュラム開発の理論と実践 ②学校経営の理論と実践 ③学校評価とスクールリーダーシップ ④地方教育行政の理論と実践 下記の⑤-⑧の中から３科目６単位必修 ⑤学習支援の理論と実践 ⑥教育評価の理論と実践 ⑦子ども理解と支援・指導の理論と実践 ⑧特別活動指導の理論と実践 ２．今日的な教育課題 多文化共生教育の課題と実践　２単位必修 ３．コース科目 課題研究６単位必修 ４．自由選択科目 全コース科目の中から６単位選択必修 ５．実習科目 10単位必修 ○卒業要件単位数 46単位 ○履修科目の登録上限 年間40単位	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（教育学研究科教育実践高度化専攻（授業実践開発コース））

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通5領域	共通科目	教育課程の編成及び実施	教育課程編成の理論と実践	1前	2			○			1					兼1
		教科等の実践的な指導方法	授業実践分析	1前	2			○			1	1				
		生徒指導及び教育相談	生徒指導の理論と実践	1前	2			○			1					
		学級経営及び学校経営	学校づくりと学級経営	1前	2			○			3	1				
		学校教育と教員の在り方	教員の職能成長と倫理	1前	2			○			1					兼1
	コース科目	教育課程の編成及び実施	横断的・総合的な学習指導の理論と実践A	1前		2		○								兼42
			横断的・総合的な学習指導の理論と実践B	1後		2		○								兼42
		教科等の実践的な指導方法	授業研究の理論と実践	1後	2			○				1				
			道徳教育の理論と実践	1前	2			○								兼1
			国語科学習指導の理論と実践	1後		2		○				2				
			社会科学習指導の理論と実践	1後		2		○			1	1				
			英語科学習指導の理論と実践	1後		2		○			1					兼1
			算数・数学科学習指導の理論と実践	1後		2		○				1	1			
			理科学習指導の理論と実践	1後		2		○			1	1				
			技術科学習指導の理論と実践	1後		2		○					1			兼3
			音楽科学習指導の理論と実践	1後		2		○			1	1				
			図画工作・美術科学習指導の理論と実践	1後		2		○				1				兼1
			家庭科学習指導の理論と実践	1後		2		○			1	1				
			保健体育科学習指導の理論と実践	1後		2		○			1	1				
			小計（19科目）	－	14	24	0	－			9	12	1	0	0	兼47
今日的な教育課題	共通科目		多文化共生教育の課題と実践	1前	2			○								兼2
	コース科目		学校教育におけるICTの実践と課題	1前	2			○					1			
			インクルーシブ教育としての学習指導	1後	2			○			2	1				兼1
			幼小連携の課題と実践	1･2前		2		○			1					
			生活科教育の課題と実践	1･2後		2		○			1					
			小学校英語教育の理論と実践	1･2後		2		○			1					
			教育相談の課題と実践	1･2前		2		○								兼1
			小計（7科目）	－	6	8	0	－			3	1	1	0	0	兼4
教科内容構成学			国語科内容構成学	1前		2		○				2				兼4
			社会科内容構成学	1前		2		○			1	1				兼6
			英語科内容構成学	1前		2		○			1					兼8
			算数・数学科内容構成学	1前		2		○				1	1			兼4
			理科内容構成学	1前		2		○			1	1				兼5
			技術科内容構成学	1前		2		○					1			兼3
			音楽科内容構成学	1前		2		○			1	1				兼4
			図画工作・美術科内容構成学	1前		2		○				1				兼4
			家庭科内容構成学	1前		2		○			1	1				兼3
			保健体育科内容構成学	1前		2		○			1	1				兼2
			小計（10科目）	－	0	20	0	－			6	9	2			兼43
教材研究と授業構想			社会科の教材研究と授業構想A	1･2前		2		○			1	1				兼6
			社会科の教材研究と授業構想B	1･2後		2		○			1	1				兼6
			教材研究と授業構想のための数学的基礎	1･2前		2		○				1	1			兼4
			理科の教材研究と授業構想	1･2前		2		○								兼7

	保健体育科の教材研究と内容構成A	1･2前		2		○								兼2	
	保健体育科の教材研究と内容構成B	1･2後		2		○								兼3	
	小計（6科目）	－	0	12	0	－			1	2	1			兼21	
教育研究方法論	教育実践研究法	1前		2		○			4	3	1			兼6	
実習	授業実践開発実習Ⅰ	1通	2					○	6	9	2			兼2	
	授業実践開発実習Ⅱ	2通	8					○	6	9	2			兼2	
	小計（2科目）	－	10	0	0	－			6	9	2	0	0	兼2	
課題研究	授業実践課題研究Ⅰ	1前	2				○		6	9	2			兼2	
	授業実践課題研究Ⅱ	1後	2				○		6	9	2			兼2	
	授業実践課題研究Ⅲ	2前	2				○		6	9	2			兼2	
	授業実践課題研究Ⅳ	2後	2				○		6	9	2			兼2	
	小計（4科目）	－	8	0	0	－			6	9	2	0	0	兼2	
合計（49科目）		－	38	66	0	－			14	11	2	0	0	兼52	

学位又は称号	教職修士（専門職）	学位又は学科の分野	教員養成関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

1．共通５領域　※18単位必修
(1)教育課程の編成及び実施に関する領域科目
教育課程編成の理論と実践　２単位必修
横断的・総合的な学習指導の理論と実践　A又はBいずれか２単位選択必修
(2)教科等の実践的な指導方法に関する領域科目
授業実践分析　２単位必修
授業研究の理論と実践　２単位必修
道徳教育の理論と実践　２単位必修
授業研究の理論と実践及び道徳教育の理論と実践を除く各教科学習指導の理論と実践 の中から２単位選択必修
(3)生徒指導及び教育相談に関する領域科目　２単位必修
(4)学級経営及び学校経営に関する領域科目　２単位必修
(5)学校教育と教員の在り方に関する領域科目　２単位必修
2．今日的な教育課題に関する領域科目
多文化共生教育の課題と実践　２単位必修
学校教育におけるICTの実践と課題　２単位必修
インクルーシブ教育としての学習指導　２単位必修
3．コース科目
課題研究６単位必修
各教科内容構成学 の中から２単位選択必修
4．自由選択科目
コース科目の中から４単位選択必修
5．実習科目
10単位必修

○卒業要件単位数
46単位
○履修科目の登録上限
年間40単位

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（教育学研究科教育実践高度化専攻（特別支援教育実践開発コース））

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通5領域	共通科目	教育課程の編成及び実施	教育課程編成の理論と実践	1前	2			○			1					兼1
		教科等の実践的な指導方法	授業実践分析	1前	2			○			1	1				
		生徒指導及び教育相談	生徒指導の理論と実践	1前	2			○			1					
		学級経営及び学校経営	学校づくりと学級経営	1前	2			○			3	1				
		学校教育と教員の在り方	教員の職能成長と倫理	1前	2			○			1					兼1
	コース科目	教育課程の編成及び実施	特別支援教育におけるカリキュラムデザイン	1前	2			○				1				
		教科等の実践的な指導方法	特別支援教育における授業実践	1後	2			○				1				
		生徒指導及び教育相談	特別支援教育コーディネーターの役割と課題	1前	2			○			1					
		学級経営及び学校経営	特別支援教育の制度と学校・学級経営	1前	2			○			1					
			小計（9科目）	－	18			－			8	3	0	0	0	兼2
今日的な教育課題	共通科目		多文化共生教育の課題と実践	1前	2			○								兼2
			小計（1科目）	－	2			－			0	0	0	0	0	兼2
コース科目	特別支援教育実践		特別支援教育の理論と実践	1後	2			○			1					
			インクルーシブ教育の理論と課題	1後	2			○				1				
			特別支援教育と医療・福祉との連携	1後	2			○			1					
			重度・重複障害教育の実践と課題	1後	2			○				1				
実習			特別支援教育課題発見実習Ⅰ	1前	2					○	3	3				
			特別支援教育課題発見実習Ⅱ	1後	2					○	3	3				
			特別支援教育課題解決実習	2通	6					○	3	3				
			小計（3科目）	－	10			－			3	3	0	0	0	0
課題研究			特別支援教育課題研究Ⅰ	1前	2				○		3	3				
			特別支援教育課題研究Ⅱ	1後	2				○		3	3				
			特別支援教育課題研究Ⅲ	2前	2				○		3	3				
			特別支援教育課題研究Ⅳ	2後	2				○		3	3				
			小計（4科目）	－	8			－			3	3	0	0	0	0
合計（21科目）				－	46			－			9	5	0	0	0	兼4

学位又は称号	教職修士（専門職）	学位又は学科の分野	教員養成関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
１．共通５領域　※18単位必修 (1)教育課程の編成及び実施に関する領域科目　４単位必修 (2)教科等の実践的な指導方法に関する領域科目　４単位必修 (3)生徒指導及び教育相談に関する領域科目　４単位必修 (4)学級経営及び学校経営に関する領域科目　４単位必修	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

(5)学校教育と教員の在り方に関する領域科目　２単位必修 ２．今日的な教育課題に関する領域科目　２単位必修 ３．コース科目 課題研究　６単位必修 特別支援教育実践から８単位必修 ４．自由選択科目 他コース科目の中から２単位選択必修 ５．実習科目 10単位必修 ○卒業要件単位数 46単位 ○履修科目の登録上限 年間40単位	

教　育　課　程　等　の　概　要

（教育学研究科教職リーダー専攻）【既設】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通科目	教育課程の編成及び実施	教育課程編成の課題と実践	1	2			○								兼1
		カリキュラム開発の課題と実践Ⅰ	1	2			○			2					
	教科等の実践的な指導方法	学習支援の課題と実践Ⅰ	1	2			○			2					
		教育評価の課題と実践Ⅰ	1	2			○			2					
		授業分析実践	1	2			○			1	1				
	生徒指導及び教育相談	児童・生徒理解の課題と実践Ⅰ	1	2			○					1			兼1
		児童・生徒指導の課題と実践Ⅰ	1	2			○			1					兼1
	学級経営及び学校経営	特別活動指導の課題と実践Ⅰ	1	2			○			2					
		学校経営の課題と実践Ⅰ	1	2			○				1				兼1
	学校教育と教員の在り方	教育環境学	1･2		2		○								兼1
		教員の倫理	1･2		2		○								兼1
	多文化共生教育	多文化共生教育の課題と実践	1･2		2		○								兼2
		多エスニシティ化社会の教育の課題と実践	1･2		2		○								兼1
	小　計（１３科目）		－	18	8	0		－		7	2	1	0	0	兼7
コース別科目 児童生徒支援コース科目	学習支援に関する分野	学習支援の課題と実践Ⅱ	1･2		2		○			2					
		教育評価の課題と実践Ⅱ	1･2		2		○			2					
	生活支援に関する分野	児童・生徒理解の課題と実践Ⅱ	1･2		2		○					1			兼1
		児童・生徒指導の課題と実践Ⅱ	1･2		2		○			1					
		教育相談の課題と実践	1･2		2		○								兼1
		教育相談実習	1･2		1				○	1					兼1
		特別活動指導の課題と実践Ⅱ	1･2		2		○			2					
		心理・発達アセスメント実習	1･2		1				○	1		1			
		児童・生徒指導のためのロールプレイの技法と実習	1･2		1			○		2					
	特別支援に関する分野	外国籍児童生徒の支援と学校運営	1･2		2		○								兼2
		発達障害児特別支援教育の課題と実践	1･2		2		○								兼2
	実践研究に関する分野	教育実践のリフレクション	1･2		1				○	7	2	1			兼2
		教育現場実践実習	1･2		1				○	7	2	1			兼2
	課題研究に関する分野	児童生徒支援課題研究	1～2		4			○		10	2	1			兼2
	小　計（１４科目）		－	0	26	0		－		10	2	1	0	0	兼7
コース別科目 学校運営コース科目	教育課程編成に関する分野	カリキュラム開発の課題と実践Ⅱ	1･2		2		○			2					
	学校経営に関する分野	学校経営の課題と実践Ⅱ	1･2		2		○				1				兼1
		学校経営計画ワークショップ	1･2		1				○	1					
		スクール・リーダーシップの課題と実践	1･2		2		○			2					
		教師の職能発達と学校経営	1･2		2		○			2					
		多国籍児童生徒の支援と学校運営	1･2		1				○						兼2
	学校評価に関する分野	学校評価の課題と実践	1･2		2		○			2					
	ｺﾝﾌﾘｸﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄに関する分野	学校危機管理体制構築の課題と実践	1･2		2		○				1				
	教育行政に関する分野	地方教育行政の課題と実践	1･2		2		○			1					
	実践研究に関する分野	学校経営のリフレクション	1･2						○	7	2	1			兼2
	課題研究に関する分野	学校運営課題研究	1～2		4			○		10	2	1			兼2
	小　計（１１科目）		－	0	21	0		－		10	2	1	0	0	兼4
学校における実習科目	課題研究実習	課題発見実習Ⅰ	1	1					○	7	2	1			兼2
		課題発見実習Ⅱ	1	4					○	7	2	1			兼2
		課題解決実習	2	5					○	10	2	1			兼2
	小　計（３科目）		－	10	0	0		－		10	2	1			兼2
合　計（４１科目）			－	28	55	0		－		10	2	1	0	0	兼10

学位又は称号	教職修士（専門職）	学位又は学科の分野	教員養成関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等		
（１）共通科目 ①教育課程の編成及び実施に関する領域科目　４単位必修 ②教科等の実践的な指導方法に関する領域科目　６単位必修 ③生徒指導及び教育相談に関する領域科目　４単位必修 ④学級経営及び学校経営に関する領域科目　４単位必修 ⑤学校教育と教員の在り方に関する領域科目　２単位選択必修 ⑥多文化共生教育に関する領域科目　２単位選択必修 計２２単位（必修１８単位，選択必修４単位） （２）コース別科目 ①児童生徒支援コース 児童生徒支援課題研究４単位必修，児童生徒支援コース科目８単位自由選択　計１２単位 ②学校運営コース 学校運営課題研究４単位必修，学校運営コース科目８単位自由選択　計１２単位 （３）自由選択科目 共通科目，児童生徒支援コース科目又は学校運営コース科目から２単位選択必修 （４）学校における実習科目 課題発見実習Ⅰ２単位必修，課題発見実習Ⅱ５単位必修，課題解決実習６単位必修 計１３単位 以上のとおり４９単位を修得すること。 ○履修科目の登録上限 年間４０単位	１学年の学期区分	２	期
	１学期の授業期間	15	週
	１時限の授業時間	90	分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（教育学研究科教育実践高度化専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
	共通科目	教育課程編成の理論と実践	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法について学ぶ。また、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行う意義や実際について、具体例から学ぶ。 （28 吉田浩之） 教育課程編成の基準、意義、編成方法等について解説し、また、基本事例を取り上げて検討する。 （59 久保信行） 各学校の教育課程編成に関する様々な実践事例を取り上げ解説し、また、実際に教育課程作成の演習を行う。	共同
		授業実践分析	授業を分析・構築するための心理学的及び実践的視点を学んだ上で、それらの知見をいかに実際の授業で活用しうるかを検討する。受講生は、それぞれの実践をもとに指導案を作成し、授業を提案する。その後、グループや全体で提案された授業についての分析を行い、改善案を検討する。 （15 鈴木豪） 心理学的な見地に立った授業設計について解説する。 （23 田村充） 教育現場における優れた実践例等について解説する。	共同
		生徒指導の理論と実践	生徒指導に関する基礎的知識と具体的な方法論を学ぶ。生徒指導の意義や目的を理解した上で、日常的な生徒指導のあり方や方法を踏まえ、さらに、いじめ、不登校、非行の課題や学校不適応に対する個別的・組織的な対処の方法、生徒指導と学級・ホームルーム経営のあり方、生徒指導と家庭や地域、関係機関との連携を扱っていく。	
		学校づくりと学級経営	（概要）学校全体の状況や課題、学校を取り巻く環境の変化をとらえて、学校全体の組織的な取組、保護者や地域等との連携、及び児童生徒の課題を多面的に捉えた学級経営のあり方について探求する。実務家教員、研究者教員のＴＴにより、講義及びグループワーク等の演習により進める。 （オムニバス方式／全15回） （2 音山若穂・35 懸川武史・16 高橋望・38 平林茂／１回） イントロダクション、学校づくりと学級経営について、授業の進め方についての解説。 （2 音山若穂・35 懸川武史／７回） 「学校づくり」と学級経営との関連について検討した上で、組織変革のアプローチの一つである「Appreciative Inquiry」を取り上げ、このアプローチによる組織的な取組のあり方について演習を交えて検討する。加えて、ピア・サポートモデルを取り上げ、このモデルを踏まえた学校や学級の課題解決プロセスを演習を交えて検討する。 （16 高橋望・38 平林茂／７回） 学校経営における理論的観点と組織的な取り組み、保護者や地域等との関わりや関係機関との協働と協力体制の構築、等について、事例検討や演習を交えて検討する。	オムニバス方式 共同
		教員の職能成長と倫理	教育学の学問的成果や蓄積を、受講生の（実習を含めた）学校現場での実体験や実感と乖離させないかたちで、学んでいく。学校教育を内部からとらえる視点と外部からとらえる視点を融合させ、学校教育の在り方、教員の在り方に関する総合的な見識を身につけられるようにする。 （81 三澤紘一郎） 学校教育を外部からとらえる視点は、教育学並びに倫理学の知見を基に、クラス内での議論の活性化をはかる。 （37 立見康彦） 学校教育の内部の視点は、受講生の経験や課題を照応しながら、現場と行政権を活かした見地から磨き上げる。	共同

共通5領域	コース別科目	カリキュラム開発の理論と実践	個別教科や教科横断的課題についてのカリキュラム開発、学校内外のリソースの組織を含むカリキュラム・マネジメントについて、理論的背景、学習指導要領の変遷に伴う具体的なトピックなどを論じるとともに、受講者が勤務校、先進校等の事例を取り上げ、プレゼンテーションを行う。 （8 山崎雄介） カリキュラム開発、カリキュラム・マネジメントにかかわる理論的背景の解説、受講者プレゼンテーションへのコメントを行う。 （36 木村淳一） 学校現場でのカリキュラム開発、カリキュラム・マネジメントにかかわる実践的知識の提示、分掌責任者等としてこれらの活動にかかわる際の留意点を講じるとともに、受講者プレゼンテーションへのコメントを行う。	共同
		学習支援の理論と実践	心理学の理論知と学校現場の実践知との往還を通して、児童生徒の学習を支援する有効な手立てを検討することをねらいとする。受講生は、心理学の理論を学び、授業実践を結びつけて理解し、児童生徒の学習を支援する有効な手立てを構想することが期待される。教員は、「記憶と知識」、「学習の転移」、「協同学習」、「メタ認知」という４つのテーマについて、心理学の理論知と学校現場の実践知の両者に立脚して、児童生徒の学習を支援する有効な手立てを論じる。 （5 佐藤浩一） 児童生徒の学習に関わって、認知心理学・教育心理学・学習心理学の理論や研究成果を解説する。あわせてこうした理論知を、どのように実践につなげるか検討し、受講者の提案する授業プランへの指導を行う。 （23 田村充） 児童生徒の学習に関わって、「記憶と知識」「学習の転移」「共同学習」「メタ認知」の観点から、具体的な実践例をもとに解説する。あわせてこうした実践例を、受講者の今後の実践にどのようにつなげるか検討し、受講者の提案する授業プランへの指導を行う。	共同
		教育評価の理論と実践	現職教員が、これまでの評価活動をさらに充実させ、ミドルリーダーとして若手を指導でき、「真正の評価」のために、ルーブリックの作成活動を行えるレベルが到達目標であり、キャリア段階（教員育成指標）では受講者の現職経験によるが最低でもⅡ、教員の経験年数によってはⅢを目指す。「真正の評価」のためのルーブリック作成や、評価の際に学習者が間違えやすい「誤概念」について講義し、それを適切に「教育評価」した上で克服するために、どうすれば良いかをグループで発表してもらう。 （7 山口陽弘） 本分野に関する認知心理学・教育心理学などの知見に基づき、「誤概念」「誤答分析」などの知見を教育評価に導入することを行う。 （23 田村充） 児童生徒の学習に関わって、「真正の評価」の観点から、具体的な実践例をもとに解説する。あわせてこうした実践例を、受講者の今後の実践にどのようにつなげるか検討し、受講者の提案する授業プランへの指導を行う。	共同
		子ども理解と支援・指導の理論と実践	児童生徒理解のための基礎的理論として一般的な発達特性、及び発達障害、及び教育相談について講義する。発達特性を講義する際にはその発達段階において発達が気になる子どもの理解の方法について考える。また、生徒指導上の今日的な課題(いじめや不登校など)を取り上げ、これらの課題の背景や対応について学ぶ。さらに、児童生徒一人一人の課題を理解し、支援・指導するための実践的な方法について事例をもとに検討する。 （20 大島みずき）　発達段階をスケールに発達特性、発達課題について理解する。発達障害を各カテゴリーからとらえ、教育相談的かかわり方について考える。ケーススタダィにより教育現場での支援・指導について検討する。 （35 懸川武史）　生徒指導の機能論の立場から、日常の教育活動における支援・指導の課題と在り方についてケーススタダィをとおして探求する。教育現場における支援・指導のマネジメント力を演習をとおして向上させる。	共同

		特別活動指導の理論と実践	特別活動の目標と意義を正しく理解した上で、学級活動の基盤となる教師－児童生徒間及び児童生徒相互の関係の望ましい在り方、児童会・生徒会活動を効果的に進めるための学校体制の整備、学校行事の適切な目標設定と評価について学修する。加えて「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等についても確認する。授業では、特別活動で要求される教師の心理教育的支援技能を養うため、講義形式の解説のほか、グループや個人での演習や活動も含む。 （2 音山若穂） 集団的対話法（ワールドカフェ、ミニインタビュー、ストーリーテリング等）の技法について演習を交えながら検討するともに、対話による省察や、合意形成の手法、集団活動の評価あり方についても検討する。 （35 懸川武史） 新指導要領を踏まえた特別活動の現状と課題について考察した後、カリキュラムジメント（特別活動の内容構成、特別活動の学習プロセス見方・考え方）や、ピア･サポートモデルを援用した問題解決能力の育成について、グループワークを交えて検討する。	共同
		学校経営の理論と実践	学校経営にかかる理論的系譜から学校現場における具体的事例に至るまで、学校経営全般について検討を行う。前半においては、教育分野だけではなく民間事例を含めた経営のあり方、理論的観点を考察し、具体的事例に対応する理論的基礎を学修する。後半では、学校現場が直面する具体的事例に即しながら、鳥瞰的な視点で学校経営を捉えることを目指す。	
		学校評価とスクールリーダーシップ	前半では、学校評価について、制度的枠組、データ分析のさまざまな手法、国内外の動向をふまえ、受講者が自身の勤務校での学校評価の改善についてアイディアを提起できるようにする。後半では、学校評価などのエビデンスを活用しつつ、さまざまな分掌でリーダーシップを発揮するための理論知・実践知を学修する。 （8 山崎雄介） 学校評価、スクール・リーダーシップにかかわる理論的背景の解説、受講者プレゼンテーションへのコメントを行う。 （36 木村淳一） 学校評価、スクール・リーダーシップにかかわる実践的知識の提示、分掌責任者等としてこれらの活動にかかわる際の留意点を講じるとともに、受講者プレゼンテーションへのコメントを行う。	共同
		地方教育行政の理論と実践	地方教育行政にかかる組織及びその運営のあり方、実際について検討を行う。また、教育法規の体系を総論的に学修する。加えて、実際の地方教育行政機関（教育委員会、教育事務所、社会教育施設など）におけるフィールドワークを通して、実際の教育行政機関のあり方、指導主事・管理主事の役割機能について理解を深める。 （16 高橋望） 教育法規の体系、教育行政における法規の役割、教育委員会等の教育組織の役割と位置づけについて、教育行政学の理論的知見から概説する。 （35 野村晃男） これまでの教育行政での職務経験に基づき、教育委員会等の実際的な動き、役割機能について、具体的事例を踏まえながら扱う。また、受講生の実態に即した形でのフィールドワークを設定し、事前事後指導を行う。	共同
	共通科目	多文化共生教育の課題と実践	グローバリゼーションの進展に伴い、その必要性が高まっている「多文化共生教育」について、その現状と今後の実践のあり方について考える。特にこの授業では、群馬県にも多くが生活するブラジル人児童生徒を対象とした多文化共生教育に関する諸研究や諸実践を、子ども、教師、保護者と教育行政などさまざまな視点から検討することで、実態の的確な把握と、よりよい実践の構築につなげたい。授業は、教員からの講義、受講生との討論、受講生の課題発表から構成する。 （73 新藤慶） 本分野に関する先行研究の知見に基づいて、授業を展開する。 （90 清水喜義） 本分野に関する学校・教育行政での実践に基づいて、授業を展開する。	共同

今日的な教育課題	コース別科目	外国につながる児童生徒の指導と支援	戦後の日本には、在日韓国・朝鮮人、中国帰国者、かれら以外のアジア系外国人、南米系外国人など、多様な国籍やエスニシティを持つ人々が暮らしてきた。そのことに伴い、教育の面でも、これらの外国籍児童生徒に対するさまざまな働きかけを行ってきた。そこでこの授業では、国内外における外国籍児童生徒や、「外国籍」ではないがエスニック・マイノリティの児童生徒を対象とした支援と、それを支える学校運営についての諸研究や諸実践の検討を通じて、成果と課題を把握し、今後のエスニック・マイノリティの児童生徒教育のあり方について考えたい。 （73 新藤慶） 本分野に関する先行研究の知見に基づいて、授業を展開する。 （90 清水喜義） 本分野に関する学校・教育行政での実践に基づいて、授業を展開する。	共同
		学校組織マネジメント演習	学校組織マネジメントの理論と具体的方法について、総合的に学修する。受講学生の置籍校の現状、教職員や児童生徒、保護者等の実態、学校周辺の地域性等の実情を踏まえ、それらに基づいた実際的な学校組織マネジメントのあり方を受講学生自身が考察・検討できるようにする。理論的な理解だけではなく、実際の学校現場で活用できる知識と方法等を身につける。なお、（独）教職員支援機構との連携に基づく授業構成も検討している。 （16 高橋望） 学校組織マネジメントにかかる理論や方法論について、海外研究者、民間理論等も踏まえながら、具体的に概説する。その上で、受講者の置籍校の実態に適切な組織マネジメントの在り方を、受講者とともに検討する。 （38 平林茂） 教育行政、学校現場での経験をもとに、受講者の置籍校の実態をともに分析し、具体的で適切な組織マネジメントの在り方を導くよう指導を行う。	共同
		学校危機管理の理論と実際	学校が直面する様々な危機（不審者、交通事故、学校事故、自然災害、等）に対して、具体的事例を取り上げながら、受講学生ともに検討していく。理論的知見を概説することに加え、判例分析に基づいた法的対応についても学修する。また、受講者の置籍校を事例とした演習も取り入れ、実際的な危機管理の在り方を受講者自身が検討できるようにする。加えて、関係機関へのフィールドワークを通じて、危機管理の実際について学修を深める。 （16 高橋望） 危機管理に関する理論的知見について概説を行う。加えて、学校が直面しうる様々な危機に対して、その予防策、対応策等について、具体的事例を踏まえながら概説する。 （35 野村晃男） 学校の直面しうる様々な危機について、具体的な事例を踏まえながら概説する。また、関係機関へのフィールドワークを設計する。	共同
研究方法		教育アセスメント演習	教育実践研究に必要な個人及び集団を対象とした各種アセスメント技法の演習。授業は、まず教育調査の方法を取り上げ、変数の考え方を理解する。続いて、仮説の立て方について修得する。 （73 新藤慶） 適切な調査設計・調査票作成の技術を獲得することを目指す。 （2 音山若穂） 実践研究に必要な心理尺度と統計処理法について、パソコンでの演習を含め確認する。 （20 大島みずき） 幼児期から青年期にかけて個人のアセスメントに用いられる主要な心理発達検査を紹介するとともに、受講者相互に検査者、被検査児役となって演習し、検査技法を習得する。	共同
実習		高度経営力・指導力開発実習Ⅰ	一年次前期で、座学で学んだことを元にして、一年次の後期の始まる直前において現職教員の自身の置籍校に戻る。授業改善の研究テーマであれば、そこで事前アンケートや領域別の学力テストを実施したり、実際に自分で研究授業を企画することで、二年次の実習計画をより緻密に立てるようにする。学校運営の研究テーマであれば、教員や保護者などへのアンケートを実施したり、地域に関するアンケート調査などを開始し、学校及びそれを取り巻く環境の課題を明確にする。その上で、二年次の実習計画を明確化することが、この実習の目的である。 ※毎回を、全教員が担当。 8 山崎雄介・7 山口陽弘・5 佐藤浩一・2 音山若穂・23 田村充・35 懸川武史・25 野村晃男・16 高橋望・73 新藤慶・81 三澤紘一郎・15 鈴木豪・20 大島みずき	共同

	高度経営力・指導力開発実習Ⅱ	二年次の四月から十二月までの長期間をかけて、各教員が設定した課題を、一年次に学んだ手法によって解決し、その効果検証をするところまでを実習Ⅱとする。この実習は年四回の公開授業（ねらいb三回、ねらいa一回）を大きな山としている。ねらいbが校内での公開授業であるのに対し、ねらいaは近隣の校外への学校にも公開する授業である。大まかな予定としては、一学期中にねらいbを二回、二学期中にねらいb、およびねらいaを各一回ずつ実施するのが標準的である。学側の指導教員が実際に参加しての訪問時間は、最低二十時間である。 ※毎回を、全教員が担当。 8 山崎雄介・7 山口陽弘・5 佐藤浩一・2 音山若穂・23 田村充・35 懸川武史・25 野村晃男・16 高橋望・73 新藤慶・81 三澤紘一郎・15 鈴木豪・20 大島みずき	共同
課題研究	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ	現職教員が自身の課題を二年間かけて設定・解決していくことを実務家教員と研究者教員の双方の立場から支援していく。その上でミドルリーダーになりうる資質を養成する。教員育成指標のキャリア段階で最低でもⅡ、及びⅢの段階を到達目標としている。教員各自が自身の二年間における大学院での課題を明確に設定してもらい、それを考えて、人前で発表してもらう。 ※毎回を、全教員が担当。 8 山崎雄介・7 山口陽弘・5 佐藤浩一・2 音山若穂・23 田村充・35 懸川武史・25 野村晃男・16 高橋望・73 新藤慶・81 三澤紘一郎・15 鈴木豪・20 大島みずき	共同
	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ	教員各自が自身の二年間における大学院での課題を決定後、それを解くための手立てを考えてもらい、それを考えて、人前で発表してもらう。こうした振り返りは、実務家と研究者のティームティーチングで対応していく。なお、実際の内容については、院生の関心に寄り添う形で進めていく。前期の発表結果を受けて、指導教員以外から受けた指摘をうまく振り返りに利用し、その手立てを検討する。手立てに関する文献をできるだけ読み、効果検証の手法も検討し、事前・事中・事後の効果検証・アンケートなどを作成する。中間発表会を他の発表者と一堂に会して実施する。その際に合同での検討を行う。 ※毎回を、全教員が担当。 8 山崎雄介・7 山口陽弘・5 佐藤浩一・2 音山若穂・23 田村充・35 懸川武史・25 野村晃男・16 高橋望・73 新藤慶・81 三澤紘一郎・15 鈴木豪・20 大島みずき	共同
	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ	現職教員各自が自身の勤務校に戻り、実際に解決実習において解決していく。少なくとも一学期中に二回の校内での公開授業（ねらいb）を実施してもらうことを目標にする。事前調査となるアンケート・効果検証のための能力測定のテスト等を実施する。この際、短期的なルーブリックにとどまらず、一年間を通しての長期的ルーブリックを設定する。ねらいbを二回実施し、事中調査となるアンケート調査・効果検証のための能力テストを実施する。 ※毎回を、全教員が担当。 8 山崎雄介・7 山口陽弘・5 佐藤浩一・2 音山若穂・23 田村充・35 懸川武史・25 野村晃男・16 高橋望・73 新藤慶・81 三澤紘一郎・15 鈴木豪・20 大島みずき	共同
	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ	現職教員各自が自身の勤務校で解決実習において課題を解決していく。二学期中に一回の校内での公開授業（ねらいb）と、一回の校内外の公開授業（ねらいa）を実施してもらう。さらに公開での課題研究発表会を行ってもらう。課題研究論文も並行して執筆してもらう。同時に最後のまとめとなるねらいaの準備をしていく。ほぼ半年間のまとめとなるねらいaの授業、及び事後調査を実施する。最後に公開の課題研究発表会の準備を行い、論文をまとめると同時にその成果を発表する。 ※毎回を、全教員が担当。 8 山崎雄介・7 山口陽弘・5 佐藤浩一・2 音山若穂・23 田村充・35 懸川武史・25 野村晃男・16 高橋望・73 新藤慶・81 三澤紘一郎・15 鈴木豪・20 大島みずき	共同

		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A	（概要）教科横断的・総合的な学習課題（従来総合的な学習の時間において扱われてきたテーマ：国際平和、環境問題、健康問題、国際理解、情報、地域の課題など）を探究することに よって、授業開発力を養う。また、教科横断的な学習及び総合的な学習の構想と展開について、実務家教員と研究者教員との共同で、学生を交えた少人数のグループを作成し具体的な事例を分析しながら検討するとともに、教科横断型の学習及び総合的な学習のモデル立案・単元開発を行う。 （オムニバス方式/全15回） ※教科専門全教員が担当。 55 藤本宗利・44 小林英樹・50 永由徳夫・69 小林正行・45 齋藤周・47 関戸明子・56 藤森健太郎・63 今井就稔・68 小谷英生・61 青山雅史・40 伊藤隆・49 照屋保・85 山本亮介・62 石井基裕・41 岩崎博之・54 日置英彰・46 佐野史・77 寺嶋容明・66 岸岡真也・60 青木悠樹・71 佐藤綾・57 三國正樹・52 西田直嗣・74 菅生千穂・84 山崎法子・53 林耕史・70 齋江貴志・67 喜多村徹雄・39 新井淑弘・78 中雄勇人・43 楠元一臣・79 古田貴久・87 片柳雄大・51 西薗大実・48 田中麻里・80 前田亜紀子・76 田中一嘉・82 三原智子・72 柴田知薫子・83 宮本文・65 金田仁秀・89 山田敏幸	オムニバス方式・共同
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践B	（概要）教科横断的・総合的な学習課題（従来総合的な学習の時間において扱われてきたテーマ：国際平和、環境問題、健康問題、国際理解、情報、地域の課題など）を探究することに よって、授業開発力を養う。また、教科横断的な学習及び総合的な学習の構想と展開について、実務家教員と研究者教員との共同で、学生を交えた少人数のグループを作成し具体的な事例を分析しながら検討するとともに、教科横断型の学習及び総合的な学習のモデル立案、単元開発を行う。 （オムニバス方式/全15回） ※教科専門全教員が担当。 55 藤本宗利・44 小林英樹・50 永由徳夫・69 小林正行・45 齋藤周・47 関戸明子・56 藤森健太郎・63 今井就稔・68 小谷英生・61 青山雅史・40 伊藤隆・49 照屋保・85 山本亮介・62 石井基裕・41 岩崎博之・54 日置英彰・46 佐野史・77 寺嶋容明・66 岸岡真也・60 青木悠樹・71 佐藤綾・57 三國正樹・52 西田直嗣・74 菅生千穂・84 山崎法子・53 林耕史・70 齋江貴志・67 喜多村徹雄・39 新井淑弘・78 中雄勇人・43 楠元一臣・79 古田貴久・87 片柳雄大・51 西薗大実・48 田中麻里・80 前田亜紀子・76 田中一嘉・82 三原智子・72 柴田知薫子・83 宮本文・65 金田仁秀・89 山田敏幸	オムニバス方式・共同
		授業研究の理論と実践	学校において取り組まれる授業研究（Lesson Study）とその基礎といえる授業分析の理論と実践について学ぶことを通して、「資質・能力」を育成するための教科の学習指導における教育方法のあり方や学習評価の基礎的な考え方について理解を深める。授業研究の理論とその実践上の課題について議論を行うとともに、実際の授業の事例研究を通して、授業について目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の観点から捉え、その改善について議論を行う能力を育成する。特定の教科ではなく、教科横断的に授業を捉えることを意識し、全教科・各学校種に共通する「教科等の授業」のあり方についての体系的な理解を深める。	
		道徳教育の理論と実践	道徳授業の最新動向を概観しながら、道徳教育の意義や在り方、目標・内容・方法を学ぶ。また、教材研究及び学習指導案の作成、それに基づく模擬授業を通して、道徳授業を行うのに必要な実践的指導力を身につける。前半は、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容についての理解を深める。後半は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法についての理解を深める。	
		国語科学習指導の理論と実践	国語科の学習指導において育成すべき「資質・能力」を育成するために教育方法のあり方や学習評価の基礎的な考え方について理解を深めるとともに、実際の授業について、その目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の観点から捉え、その改善について議論を行う。授業は基本的にワークショップの形態で行う。「主体的・対話的で深い学び」、「国語科学習指導の目標や特徴」といった国語科教育の枠組にかかわるテーマを前半に扱い、後半には具体的な授業実践記録や授業事例映像についての批評を行う。 ※毎回を、33 濵田秀行・30 河内昭浩が担当。	共同

共通５領域	コース別科目	社会科学習指導の理論と実践	（概要）社会科、地理歴史科・公民科教育に関わる基本的理論の体系的理解を深め、深い学びを実現するための授業実践力を身に付ける。そのために、学習指導に関して示された教育行政上の基準の趣旨、各種の授業実践や理論的研究の歩み、社会をフィールドとする観察・調査の実際、資質・能力の育成とその評価、教材研究を深めることの意義とその方法、授業実践上の技能などについて、指導者からの講義、受講者による資料の分析やその報告などの活動を通して理解を深め、授業実践力の向上を図る。 （オムニバス方式/全15回） （24 中尾敏朗／８回） 社会科、地理歴史科、公民科の行政的基準の趣旨とその歩み、資質・能力の育成と評価、教材研究の深化、実践上の技能の向上などについて指導を行う。 （19 宮﨑沙織／７回） 社会科、地理歴史科、公民科の授業実践と理論研究の歩み、社会的事象の観察・調査の実際、教材研究の深化、実践上の技能の向上などについて指導を行う。	オムニバス方式
		英語科学習指導の理論と実践	（概要）本授業では、英語科学習指導における小中高接続を目指し、理論知を実践知に変換する資質能力を獲得することを目指す。 （オムニバス方式/全15回） （9 渡部孝子/７回） 第二言語習得理論研究の中から特に子ども（小学生から中学生）に焦点を当て、子どもたちがどのように英語を学んでいるのかを動機付け、言語学習ストラテジー、教室の談話などを中心に検討し、授業分析を行いながら、学習思考言語としてどのように英語を指導していくかを検討する。 （42 上原景子/８回） 心理言語学と認知言語学の観点に基づく言語の理解と産出の仕組みに焦点を当て、第二言語習得、第一言語習得、外国語学習の相違点を明らかにしながら、中学・高校における授業分析を行い、新学習指導要領における英語教育の目標達成に向けた効果的な言語活動のあり方を検討する。	オムニバス方式
		算数・数学科学習指導の理論と実践	算数・数学科の目標・内容や教授方法のあり方、学習評価の考え方について理解を深め、授業実践例に基づきながら教育実践上の問題や課題について考察する。また、授業を目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の様々な観点から捉え、授業デザインを行い、検証を行いながら、その改善について議論を行う。さらに、授業を改善していくプロセスについて体験的に学んでいく。 ※毎回を、14 澤田麻衣子・21 小泉健輔が担当。	共同
		理科学習指導の理論と実践	（概要）理科の目標・内容や指導方法について理解を深め、具体的な授業実践事例に基づきながら実践上の課題について考察を行うとともに、実習における授業デザイン、検証、省察を通して、授業を改善するプロセスについて体験的に学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （26 益田裕充／７回） 理科教育における現代的な課題を踏まえたカリキュラム・マネジメントや学習指導方法に関する理論に基づき、理科の授業デザインについて検討する。 （31 栗原淳一／８回） 実習における理科授業構想、授業の効果検証、省察を行い、授業デザインについて実践的検討を行う。	オムニバス方式
		技術科学習指導の理論と実践	（概要）技術科教育の目標・内容・方法について理解を深め、具体的な授業実践事例に基づきながら、実践上の課題について考察を行うとともに、実習における授業のデザイン、検証、考察を通して、授業を改善するプロセスについて体験的に学ぶ。 （オムニバス方式／15回） （34 小熊良一／６回） 技術科教育と学習指導要領の変遷、技術科教育と社会、技術科教育の授業デザイン 「生物育成の技術」における学習指導、教材、評価 （43 楠元一臣／３回） 「材料と加工の技術」における学習指導、教材、評価 （87 片柳雄大／３回） 「エネルギー変換の技術」における学習指導、教材、評価 （79 古田貴久／３回） 「情報の技術」における学習指導、教材、評価	オムニバス方式

		音楽科学習指導の理論と実践	（概要）教科教育の目標・内容・方法について理解を深め、具体的な授業実践事例に基づきながら、実践上の課題について考察を行うとともに、授業のデザイン、検証、省察を通して、授業を改善するプロセスについて体験的に学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) （27 吉田秀文/７回） 音楽科教育における理論的背景に基づきながら、音楽科カリキュラムを概観するとともに、音楽科教育における様々な課題の検討を行う。その際、歌唱、器楽、創作、鑑賞の領域ごとに取り組む。 （17 中里南子/８回） 附属学校園等学校現場の教諭、他による意見も加味して考案された新しい視点による授業実践案を作成し実際に行うことで、その妥当性を検証する。その際、一つの領域に偏ることなく幅広い分野における授業のデザインを検証する。	オムニバス方式
		図画工作・美術科学習指導の理論と実践	（概要）学校教育における図画工作科・美術科の意義（役割）について考察し、教科を通じて育む資質・能力を踏まえ、教科の目標、内容、指導方法について理解を深める。多様な実践事例を通じて授業における具体的な課題を考察するとともに、その省察を通して、授業改善のプロセスを体験的かつ論理的に学び、教師としての力量を高める。教科の内容構成や系統性を見通した上で、発達段階に即した児童・生徒の資質・能力を高めるための教材研究（開発）を行い、実践的価値を議論し検証し合うことを通じて、教科の学習指導の理論化を図る。 （オムニバス方式/全15回） （58 茂木一司／７回） 学校教育における図画工作科・美術科の意義（役割）について、実践を元に学習論、カリキュラム論、授業論、評価論、教師論などの観点から考察する。 （32 郡司明子／８回） 図画工作科・美術科を通じて育む資質・能力の向上に資する教材研究（開発）及び実践的価値の検証を通じて、授業改善のプロセスを習得する。	オムニバス方式
		家庭科学習指導の理論と実践	（概要）家庭科教育の目的･内容・方法について理解を深め、教育実践上の課題を考察する。また、家庭科教育実践に関する文献や授業実践記録などの分析を通して、学習者が生活者として自立し、生活問題の解決を可能とする知識と技術、諸能力（意思決定能力や批判的思考能力等）を習得するために必要な授業設計、評価、授業改善の視点や方法について体験的に学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （1 上里京子/8回） 家庭科教育の目的・内容･方法について理解を深め、教育実践上の課題を考察する。また、それらの課題を踏まえたカリキュラム開発や学習指導方法に関する理論に基づき、家庭科の授業デザインについて検討する。 （13 小林陽子/7回） 実習等における家庭科の授業構想、省察と評価による授業効果の検証を行い、授業改善の視点や方法を検出するとともに、授業デザインについて実践的検討を行う。	オムニバス方式
		保健体育科学習指導の理論と実践	本授業では、学部において習得した保健体育授業の目標・内容・方法・評価について、体育科教育学の研究成果をふまえ、さらに理解を深める。理論と実践の往還をめざし、保健体育授業の具体的な実践例をもとに、教授・学習の実践上の諸課題を多面的な観点から把握・分析し、考察する。さらに、授業づくり、授業実践、授業評価及び省察を体験的に学ぶこと通して、「よい体育授業」を見据えた授業改善のプロセスを理解・習得し、授業実践力を養う。 ※毎回を、4 木山慶子・11 鬼澤陽子が担当。	共同
		学校教育におけるICTの実践と課題	学校における教育の情報化について、授業でのＩＣＴ機器の利活用、情報モラル教育、校務での活用の3点について総合的に学ぶ。また、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校での指導を想定した模擬授業を取り入れるなど実践的な内容とする。授業の達成目標として、「教育の情報科の意義の理解」「適切にＩＣＴ機器の活用をした授業計画の作成」「情報モラルを踏まえた授業計画の作成」「校務での情報機器の活用方法を理解」とする。	

今日的な教育課題	コース別科目	インクルーシブ教育としての学習指導	（概要）共生社会の形成にむけたインクルーシブ教育を実現すべく、多様な児童生徒が在籍する学級において、次の３つの視点で学習指導を展開できる力をつけることを目的とする。 ①多様な価値観や存在を受け入れ、ともに活動する学習指導のあり方 ②発達障害や外国にルーツがあるなどマイノリティを抱える児童生徒への個別的な学習指導のあり方 ③発達障害や外国にルーツがあるなどマイノリティを抱える児童生徒を含めた学級での学習指導のあり方 （オムニバス方式／全15回） （6 霜田浩信／４回） 共生社会の形成とインクルーシブ教育 英語学習の困難さと支援 インクルーシブ教育展開にむけたグループ討議 （58 茂木一司／３回） インクルーシブアートの意義と実践、活動の実際 （9 渡部孝子／３回） 外国にルールのある児童生徒への適応指導教育の意義と実践、指導の実際 （30 河内昭浩／３回） 交流及び共同学習の意義と実践、指導の実際 （6 霜田浩信・30 河内昭浩／２回） ユニバーサルデザインの考えに基づく学習指導	オムニバス方式・共同
		幼小連携の課題と実践	幼児期から児童期にかけての子どもの発達実態を踏まえ、幼小接続期の指導の在り方について、子どもの学びに焦点を当て、幼児期の教育と小学校教育双方の立場から検討する。発達の連続性に着目した幼小接続の取り組みとしてアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムを捉え、実践事例を基に理解をするとともに、学びの連続性に着目した幼小接続の在り方について検討する。特に、幼児期の教育での学びを小学校の教師がどのように見取り、どのように学習に活かしていくのかを、授業実践事例を基に具体的に探究する。	
		生活科教育の課題と実践	幼児期の教育から中学年以降の教育へのつながりや低学年における他教科との関連を考える上で中核となる生活科の学習指導方法について検討する。具体的には「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解を踏まえた指導、生活科で身に付けた見方・考え方が生きる社会、理科、総合的な学習の指導、生活科での体験を生かす各教科の指導なども視野に入れ検討することを通して、具体的な活動や体験を重視しつつ、気付きの質を高めるとともに、子どもにとって自覚的な学びとなる指導の在り方について、授業実践事例を基に探究する。	
		小学校英語教育の理論と実践	小学校外国語活動・英語教育に関わる教育実践について第二言語習得理論をいかに教育実践に活かし、その実践の教育効果について検証した後、次の実践に向けてどのような修正が必要かを検討する。特にContent and Language Integrated Learningが日本の小学校英語教育にどのような形で取り入れられるか、小学校教科教育での学びとの教科横断的なアプローチを通した学習目標の設定、教材研究、 授業構想、評価方法について学び、児童の学習思考言語能力育成を目指した英語教育実践について追求していく。	
		教育相談の課題と実践	適宜基礎的な心理学（教育心理学、臨床心理学）の知識に触れつつ、学校教育相談からの関わりが期待される問題（不登校、いじめ、非行、虐待など）について教員及び学校組織としての支援・指導等について考察を深める。特にスクールリーダーとして上記の問題におけるコーディネート機能や外部機関との連絡調整、予防促進機能を検討する。	

	国語科内容構成学	（概要）学習指導要領の〔知識及び技能〕を構成する項目に関する学問領域における議論を踏まえて授業の具体的な目標や内容、方法を構想する能力を育成する。国語科の内容を構成する事項毎に、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり、問い直したりして言葉への自覚を高めることのできる学習活動が国語科教育においてどのように実践されてきたのか、またどのように構想できるかを追究する。 （オムニバス方式／全15回） （44 小林英樹・33 濵田秀行／２回） 「話し言葉と書き言葉」、「文や文章」、「表現の技法」 （44 小林英樹・30 河内昭浩／２回） 「語彙」、「言葉遣い」 （69 小林正行・33 濵田秀行／２回） 「言葉の働き」、「音読、朗読」 （33 濵田秀行／３回） 「情報の整理」、「情報と情報の関係」、「読書」 （55 藤本宗利・30 河内昭浩／２回） 「伝統的な言語文化」 （69 小林正行・30 河内昭浩／２回） 「言葉の由来や変化」 （50 永由徳夫・30 河内昭浩／２回） 「書写」、「漢字」	オムニバス方式・共同
	社会科内容構成学	社会科、地理歴史科・公民科の教材構想と授業実践に関わる理解を深め、深い学びを重視した社会科の授業構成力を身に付ける。そのために、教材研究を深めて授業内容を一層意義あるものとすることや、授業研究の目的と方法を理解して授業を改善する力を高めることについての理解を踏まえ、先行的授業実践事例や自己作成になる学習指導案の検討・改善、模擬授業の実施とその分析などの実践的活動を進め、理論と実践の往還を通じて社会科の学習指導力の向上を図る。 （56 藤森健太郎） 日本史領域を中心に、因果関係の追究などに関する先行的授業実践事例や受講者自身が作成した学習指導案の検討・改善、模擬授業の実施とその分析などの実践的活動について指導・助言を行う。 （63 今井就稔） 外国史領域を中心に、因果関係の追究などに関する先行的授業実践事例や受講者自身が作成した学習指導案の検討・改善、模擬授業の実施とその分析などの実践的活動について指導・助言を行う。 （61 青山雅史） 自然地理領域を中心に、社会的な見方・考え方などに関する先行的授業実践事例や受講者自身が作成した学習指導案の検討・改善、模擬授業の実施とその分析などの実践的活動に関して指導・助言を行う。 （47 関戸明子） 人文地理領域を中心に、社会的な見方・考え方などに関する先行的授業実践事例や受講者自身が作成した学習指導案の検討・改善、模擬授業の実施とその分析などの実践的活動に関して指導・助言を行う。 （45 齋藤周） 法・政治関係など公民領域を中心に、意思決定や社会参画などに関する先行的授業実践事例や受講者自身が作成した学習指導案の検討・改善、模擬授業の実施とその分析などの実践的活動に関して指導・助言を行う。 （68 小谷英生） 倫理関係など公民領域を中心に、意思決定や社会参画などに関する先行的授業実践事例や受講者自身が作成した学習指導案の検討・改善、模擬授業の実施とその分析などの実践的活動に関して指導・助言を行う。 （24 中尾敏朗） 歴史領域・公民領域を中心に、教材研究を深めて授業内容を一層意義あるものとすることや、授業研究の目的と方法を理解して授業を改善する力を高めることについて指導・助言を行う。 （19 宮﨑沙織） 地理領域・公民領域を中心に、教材研究を深めて授業内容を一層意義あるものとすることや、授業研究の目的と方法を理解して授業を改善する力を高めることについて指導・助言を行う。	共同

教科内容構成学	英語科内容構成学	（概要）英語科の内容を構成する「英語学」、「英語文学」、「英語コミュニケーション」、「異文化理解」の専門教員と、教科教育教員のティーム・ティーチングによるオムバス形式の講義である。各分野の理論的背景を理解した上で、実際の授業実践に理論的知見をどのように応用できるか、理論と実践の往還を目指す。 （オムニバス形式／全15回） （89 山田敏幸・42 上原景子／２回） 英語学、特に文法論の知見から、日本語と英語の文法構造を比較対照することで、日本人英語学習者のつまずきやすい学習項目を明らかにし、その具体的な支援策を考える。 （72 柴田知薫子・42 上原景子／２回） 子どもが音韻法則を獲得していく過程を理論に基づいて分析し、英語の非母語話者に対する音声教育への応用を試みる。 （86 レイモンド・フーゲンブーム・42 上原景子／３回） 英語コミュニケーションの知見から、日本語と英語におけるコミュニケーションの相違を明らかにし、効果的で効率的な英語コミュニケーション能力の育成について具体的な支援策を考える。 （65 金田仁秀・9 渡部孝子／２回）イギリス文学が、現代批評理論においてどのような視点から論じられているのかを概観すると同時に、日本における文学に対する概念を歴史的に検証することで、教育現場で文学テクストを実際に使う可能性を考える。 （83 宮本文・9 渡部孝子／２回） アメリカ文学の知見から、ニュートラルに見える発話やテクストが、いかに時代や人種・階級・性差といった文化的なコンテクストに縁取られているのか気づきを促し、授業実践において他者への想像力と血肉の通ったコミュニケーション能力を涵養する方策を考える。 （76 田中一嘉・9 渡部孝子／２回） 義務教育における初級英語教育と、大学における専門外初修外国語としての初級ドイツ語教育とを比較対照し、双方の諸課題を検討しながら、初級外国語教育における異文化理解の在り方を考える。 （82 三原智子・9 渡部孝子／２回） フランスを初めとする諸外国と日本（群馬）の文化や歴史上の関係について考察する。自国の文化への理解を深めつつ、いかに国際理解教育を進め、異文化を尊重する態度を育成するかを考える。	オムニバス方式・共同
	算数・数学科内容構成学	小学校で学習する算数から、中学校、高等学校で学習する数学に至るまでの、長期に渡るカリキュラムや内容の構成について、学習指導内容の体系性、系統性において考察を行う。さらに、数学の基礎的な知識や内容の理解について確認し、また、数学の知識を深めながら、実際の授業を設定した場合の具体的な目標や内容、そして具体的な指導方法について議論を行うことで、教材研究・教材開発をすすめていく。 ※毎回を全教員が担当。 62 石井基裕・40 伊藤隆・85 山本亮介・14 澤田麻衣子・49 照屋保・21 小泉健輔	共同
	理科内容構成学	（概要）理科の教科の内容構成について理解を深め、その体系性や系統性において個別の教科内容の学習指導がどうあるべきかを考察し、児童生徒が理科の目標として示される資質・能力を高めるための能力を養う。 （オムニバス方式／全15回） （60 青木 悠樹・31 栗原淳一／４回） 物理分野の授業を構成するにあたって、扱う知見や素材の専門科学としての位置づけや重要性・科学教育としての意味・科学的発展性や教育実践への更なる活用への見通し等について考察・議論を行う。 （54 日置英彰・26 益田裕充／３回） 化学分野の授業を構成するにあたって、扱う知見や素材の専門科学としての位置づけや重要性・科学教育としての意味・科学的発展性や教育実践への更なる活用への見通し等について考察・議論を行う。 （46 佐野 史・71 佐藤綾・26 益田裕充／４回） 生物分野の授業を構成するにあたって、扱う知見や素材の専門科学としての位置づけや重要性・科学教育としての意味・科学的発展性や教育実践への更なる活用への見通し等について考察・議論を行う。 （41 岩崎博之・31 栗原淳一／４回） 地学分野の授業を構成するにあたって、扱う知見や素材の専門科学としての位置づけや重要性・科学教育としての意味・科学的発展性や教育実践への更なる活用への見通し等について考察・議論を行う。	オムニバス方式・共同

技術科内容構成学	（概要）技術科の教科の内容構成について理解を深め、その体系性や系統性において個別の教科内容の学習指導がどうあるべきかを考察し、生徒が技術科の目標として示される資質・能力を高めるための教材研究・教材開発について議論を行う。 （オムニバス方式／全15回） （34 小熊良一/6回） 技術科の教科の体系性と系統性、技術科における指導過程、技術科における教材 「生物育成の技術」における教材開発の方法、教材の活用、作成 （43 楠元一臣/3回） 「材料と加工の技術」における教材開発の方法、教材の活用、作成 （87 片柳雄大/3回） 「エネルギー変換の技術」における教材開発の方法、教材の活用、作成 （79 古田貴久/3回） 「情報の技術」における教材開発の方法、教材の活用、作成	オムニバス方式
音楽科内容構成学	（概要） ①我が国の音楽科の内容の構成と仕組みを理解し、音楽科教育の動向と実態を明らかにする。 ②音楽科の教材開発に根ざした教材及び事例の分析を行い、問題点や課題を明らかにする。 ③上記①②を通して音楽科の教科の内容構成について理解を深め、その体系性や系統性において個別の教科内容の学習指導がどうあるべきかを考察し、児童生徒が音楽科の目標として示される資質・能力を高めるための教材研究、教材開発を行う。 (オムニバス方式/全15回) （27 吉田秀文・17 中里南子／2回） 初回で音楽科教育における内容と構成の仕組みについて理解を深め、音楽科教育の動向を明らかにする。最終回では総括を行う。 （17 中里南子・84 山崎法子／2回） 共通教材及び合唱曲を扱った教材研究及び事例分析と考察を行う。 （17 中里南子・74 菅生千穂／1回） 合奏曲を扱った教材研究及び事例分析と考察を行う。 （17 中里南子・57 三國正樹／3回） 器楽曲及び鑑賞教材、主に西洋音楽、我が国の音楽を扱った教材研究及び事例分析と考察を行う。 （27 吉田秀文・52 西田直嗣／2回） 創作を扱った教材研究及び事例分析と考察を行う。 （27 吉田秀文・57 三國正樹／1回） 伴奏法における事例分析と考察を行う。 （27 吉田秀文・84 山崎法子／1回） 音楽理論における事例分析と考察を行う。 （27 吉田秀文・52西田直嗣／1回） 編曲における事例分析と考察を行う。 （27 吉田秀文・74 菅生千穂／2回） 伝統音楽及び民族の音楽についての事例分析と考察を行う。	オムニバス方式・共同
図画工作・美術科内容構成学	学校教育における図画工作科・美術科の意義（役割）について考察し、教科を通じて育む資質・能力を踏まえ、教科の内容を構成する専門性（絵画、彫刻、デザイン、美術理論等）について理解を深める。多様な実践事例を通じて授業における具体的な課題を考察するとともに、その省察を通して、授業内容を構成する要素について体験的かつ論理的に学び、教師としての力量を高める。教科の系統性を見通した上で、発達段階に即した児童・生徒の資質・能力を高めるためのカリキュラム研究（開発）を行い、実践的価値を議論し検証し合うことを通じて、教科の内容構成について理論化を図る。 （53 林耕史・58 茂木一司・32 郡司明子／4回） 初回授業において、美術科教育の内容構成について理解し、教科の動向や今日的課題を明らかにする。彫刻に関する専門的知見から実践事例の分析、考察、議論を行う。 （70 齋江貴志・58 茂木一司・32 郡司明子／3回） デザインに関する専門的知見から実践事例の分析、考察、議論を行う。 （67 喜多村徹雄・58 茂木一司・32 郡司明子／3回） 絵画に関する専門的知見から実践事例の分析、考察、議論を行う。 （58 茂木一司・32 郡司明子／5回） 美術理論・美術史に関する専門的知見から実践事例の分析、考察、議論を行う。全体を総括し、美術科教育の内容構成について理解を深め、教科で育む資質・能力の向上に資するカリキュラム研究（開発）及び検証を行う。	共同

	家庭科内容構成学	（概要）家庭科教科書の教科内容の背景にある、知識及び考え方を衣・食・住の領域から学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （80 前田亜紀子・1 上里京子／5回） 衣服の役割と快適な着用、人体の体温調節機能,衣服気候と快適性、小学校家庭科領域における被服衛生学的研究、被服衛生学的実験を取り入れた内容研究 （48 田中麻里・1 上里京子・13 小林陽子／5回） 群馬の居住環境と地域性,地域性を理解するための学びの手法、群馬の地域性を理解するための題材の提案とその可能性 （51 西薗大実・13 小林陽子／5回） 食物の働きと栄養素,食料の供給・流通の課題,食品の衛生的な取扱い	オムニバス方式
	保健体育科内容構成学	（概要）本授業では、体育・保健体育の教科内容について、専門科学の成果をふまえ、理論と実践の往還を図る。それぞれの教科内容の学習指導要領における目標・内容・評価を理解し、実践上の諸課題及び児童生徒の実態に照らした、効果的な教材づくりを含む授業づくりを学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （78 中雄勇人・4 木山慶子／8回） 運動学及び運動生理学の研究成果をもとに、学習指導要領に示される領域の教材づくり、学習指導案作成、学習指導方法、評価を学ぶ。 （75 田井健太郎・11 鬼澤陽子／7回） 体育原理及びスポーツ哲学の研究成果をもとに、学習指導要領に示される領域の教材づくり、学習指導案作成、学習指導方法、評価を学ぶ。	オムニバス方式・共同
	社会科の教材研究と授業構想Ａ	小学校社会科と中学校社会科に関わる実践的課題を踏まえ、学校現場の実情に即した学習指導実践を構想する力を養うことを目的としている。まず、小中学校の社会科実践における課題を追究する。そして、設定した課題に関わる各種文献・資料の収集・読解や授業実践例の収集・検討を通じて、教材研究の進め方・深め方や、深い学びを重視した授業構想・授業設計に関する理解を深める。その上で、設定した課題の解決を目指した社会科学習指導実践を立案・実践し、省察を行う。 ※毎回を全教員が担当。 56 藤森健太郎・63 今井就稔・61 青山雅史・47 関戸明子・45 齋藤周・68 小谷英生・24 中尾敏朗・19 宮﨑沙織	共同
	社会科の教材研究と授業構想Ｂ	中学校社会科と高等学校地理歴史科・公民科に関わる実践的課題を踏まえ、学校現場の実情に即した学習指導実践を構想する力を養うことを目的としている。まず、社会科・地理歴史科・公民科実践における課題を追究する。そして、設定した課題に関わる各種文献・資料の収集・読解や授業実践例の収集・検討を通じて、教材研究の進め方・深め方や、深い学びを重視した授業構想・授業設計に関する理解を深める。その上で、設定した課題の解決を目指した社会科・地理歴史科・公民科学習指導実践を立案・実践し、省察を行う。 ※毎回を全教員が担当。 56 藤森健太郎・63 今井就稔・61 青山雅史・47 関戸明子・45 齋藤周・68 小谷英生・24 中尾敏朗・19 宮﨑沙織	共同
	教材研究と授業構想のための数学的基礎	（概要）小学校算数から中学校・高校の数学までの教科内容の背景にある基礎的理論を代数学・幾何学・解析学の各領域から学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (62 石井基裕・21 小泉健輔／5回) 代数学領域の一つの題材について、その理論体系を解説する。その上で、関連する小中高における算数・数学の教科内容を整理し、そうして得られた知見が授業でいかに活用され得るか議論する。 (14 澤田麻衣子・85 山本亮介／5回) 幾何学領域の一つの題材について、その理論体系を解説する。その上で、関連する小中高における算数・数学の教科内容を整理し、そうして得られた知見が授業でいかに活用され得るか議論する。 (40 伊藤隆・49 照屋保／5回) 解析学領域の一つの題材について、その理論体系を解説する。その上で、関連する小中高における算数・数学の教科内容を整理し、そうして得られた知見が授業でいかに活用され得るか議論する。	オムニバス方式・共同

教材研究と授業構想	理科の教材研究と授業構想	（概要）小中高等学校の学習指導要領で示されている理科の目標、そして現代の教育課題を踏まえながら、理科授業においてどのような教材を選択、開発するか、そしてそれらを授業の中でどのように活用するかを考える。具体的には、教材や指導案の準備、模擬授業の実践、ふり返りを通して実践的な授業構想力を養う。 （オムニバス方式／全15回） （77 寺嶋容明・54 日置英彰／3回） 物理分野の授業で用いられる教材から1つ選び、その教材についての知見や専門科学としての位置づけや重要性、科学教育としての意味を考え、教材を有効に利用できる授業案を構想する。更に、その教材と授業案を用いた模擬授業を行い、有効性と問題点を議論する。 （66 岸岡真也・60 青木悠樹／4回） 化学分野の授業で用いられる教材から1つ選び、その教材についての知見や専門科学としての位置づけや重要性、科学教育としての意味を考え、教材を有効に利用できる授業案を構想する。更に、その教材と授業案を用いた模擬授業を行い、有効性と問題点を議論する。 （71 佐藤綾・54 日置英彰／4回） 生物分野の授業で用いられる教材から1つ選び、その教材についての知見や専門科学としての位置づけや重要性、科学教育としての意味を考え、教材を有効に利用できる授業案を構想する。更に、その教材と授業案を用いた模擬授業を行い、有効性と問題点を議論する。 （41 岩崎博之・46 佐野史／4回） 地学分野の授業で用いられる教材から1つ選び、その教材についての知見や専門科学としての位置づけや重要性、科学教育としての意味を考え、教材を有効に利用できる授業案を構想する。更に、その教材と授業案を用いた模擬授業を行い、有効性と問題点を議論する。	オムニバス方式・共同
	保健体育科の教材研究と内容構成A	保健体育の内容について授業の構成や安全管理、今日的な課題についてなどに関する知識を深めるとともに、教材研究に関して運動学やスポーツ哲学の研究手法や内容の理解を深め、教育現場における諸課題について実例を挙げながら検証を行う。また、実践例を検討する中で、新たな教材開発や授業デザインなどを構築できるよう、身につけた様々な専門知識を、教育現場の諸課題を解決する際に応用できるようにする。 ※毎回を，78 中雄勇人・75 田井健太郎が担当。	共同
	保健体育科の教材研究と内容構成B	保健体育の内容について授業の構成や安全管理、今日的な課題についてなどに関する知識を深めるとともに、学校保健やスポーツ倫理、生理学的な研究手法や内容の理解を深め、教育現場における諸課題について実例を挙げながら検証を行う。また、実践例を検討する中で、新たな教材開発や授業デザインなどを構築できるよう、身につけた様々な専門知識を、教育現場の諸課題を解決する際に応用できるようにする。 ※毎回を全教員で担当。 39 新井淑弘・75 田井健太郎・88 島孟留	共同

教育研究方法論	教育実践研究法	（概要）教育現場を対象とした研究課題の捉え方と研究方法を学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （51 西薗大実／2回） 初回：授業全体の概要の説明・最終回：まとめ （45 齋藤周／1回） 教室のジェンダー研究の進め方 （34 小熊良一／1回） 情報教育における情報モラル教育の進め方 （31 栗原淳一／1回） 量を質で補完する研究の進め方 （28 吉田浩之／1回） 生徒指導研究の進め方 （42 上原景子／1回） 新しい英語教育における小学校英語の可能性と課題 （14 澤田麻衣子／1回） 授業研究の進め方 （6 霜田浩信／1回） 特別なニーズのある子どもの支援研究の進め方 （64 岩瀧大樹／1回） 個人・集団へのアセスメント研究の進め方 （33 濵田秀行／1回） 教室談話分析の進め方 （26 益田裕充／1回） 授業デザインベース研究の進め方 （78 中雄勇人／1回） 子どもの体力の現状と評価方法 （22 安藤哲也／1回） 教育実習を行うための学校組織の研究 （54 日置英彰／1回） これからの時代に求められる資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメント	オムニバス方式
実習	授業実践開発実習Ⅰ	附属学校や先進校の授業公開・実践検討会に参加し、教育実践についての課題設定と解決のアプローチについて実地に学ぶとともに、協力校において実践観察や実践研究課題の明確化を行うことを通して、学校教育における実践的な課題の設定、解決アプローチ、リフレクション、報告のあり方について理解を深める。授業実践課題研究Ⅰ・Ⅱにおける学修と関連付けながら自分の専門とする教科の学習指導上の課題を設定する。 ※大学の実習担当教員（研究者教員・実務家教員）が学生の実習先を訪問し指導に当たる。 ※毎回を全教員が担当。 24 中尾敏明・26 益田裕充・27 吉田秀文・58 茂木一司・4 木山慶子・1 上里京子・42 上原景子・9 渡部孝子・33 濵田秀行・30 河内昭浩・19 宮﨑沙織・14 澤田麻衣子・31 栗原淳一・17 中里南子・32 郡司明子・11 鬼澤陽子・13 小林陽子・21 小泉健輔・34 小熊良一	共同
	授業実践開発実習Ⅱ	学部新卒学生は、連携協力校において履修する。学校経営、学級経営、生徒指導、教育課程経営をはじめ学校の教育活動全体について総合的に体験し、考察する学校実習（インターンシップ）を行うとともに、実習校における授業実践改善のＰＤＣＡサイクルに参画する。授業の協働的なデザインと省察を通して授業実践を改善できる資質・能力を育成する。 現職教員学生は、置籍校において履修する。指導教員の指導・助言の下、特定の問題・課題の解決策を立案し、それを実地に検証する授業の協働的なデザインと省察を通して授業実践を改善できるようになる。また、校内の授業研究会や研究推進委員会の企画・運営を行い、学校の授業改善の取り組みの中核となることができる資質・能力を育成する。 ※大学の実習担当教員（研究者教員・実務家教員）が学生の実習先を訪問し指導に当たる。 ※毎回を全教員が担当。 24 中尾敏明・26 益田裕充・27 吉田秀文・58 茂木一司・4 木山慶子・1 上里京子・42 上原景子・9 渡部孝子・33 濵田秀行・30 河内昭浩・19 宮﨑沙織・14 澤田麻衣子・31 栗原淳一・17 中里南子・32 郡司明子・11 鬼澤陽子・13 小林陽子・21 小泉健輔・34 小熊良一	共同

課題研究	授業実践課題研究Ⅰ	学部新卒学生は、学部における課題追究を振り返るとともに、授業実践開発実習Ⅰを通して見出した学校課題のうち自らが追究するテーマを設定し、その解決に向けてどのような調査研究を行うのか見通しを立てる。具体的な実践についての議論を通して、理論と実践を往還しながら授業実践を省察的に改善していくプロセスについて理解を深める。 現職教員学生は、これまでの教育実践を振り返るとともに、授業実践開発実習Ⅰにおける学校課題やその解決アプローチについて議論を行うことを通して、理論と実践を往還しながら授業実践を省察的に改善していくプロセスについて理解を深める。 ※各教科の指導教員が担当。 国語（33 濵田秀行・30 河内昭浩）・社会（24 中尾敏朗・19 宮﨑沙織）・数学（14 澤田麻衣子・21 小泉健輔）・理科（26 益田裕充・31 栗原淳一）・美術（58 茂木一司・32 郡司明子）・音楽（27 吉田秀文・17 中里南子）・保健体育（4 木山慶子・11 鬼澤陽子）・技術（34 小熊良一）・家政（1 上里京子・13 小林陽子）・英語（9 渡部孝子・42上原景子）	共同
	授業実践課題研究Ⅱ	連携協力校の学校課題にかかわり、これまでにどのような議論が行われてきたのかをレビューし、その成果と残された課題について検討を行う。また、授業実践開発実習Ⅰにおいて体験した教育実践について議論を行うことを通して、理論と実践を往還しながら授業実践を改善していくプロセスについて理解を深めるとともに、授業実践開発実習Ⅱにおいて連携協力校の課題についてどのように検証を行うか計画を立案する。 ※各教科の指導教員が担当。 国語（33 濵田秀行・30 河内昭浩）・社会（24 中尾敏朗・19 宮﨑沙織）・数学（14 澤田麻衣子・21 小泉健輔）・理科（26 益田裕充・31 栗原淳一）・美術（58 茂木一司・32 郡司明子）・音楽（27 吉田秀文・17 中里南子）・保健体育（4 木山慶子・11 鬼澤陽子）・技術（34 小熊良一）・家政（1 上里京子・13 小林陽子）・英語（9 渡部孝子・42上原景子）	共同
	授業実践課題研究Ⅲ	連携協力校の教育課題に対して共同実践プログラムを作成する。授業実践開発実習Ⅱにおいて共同実践についてのデータを収集した上で、その分析と考察を実施する。その結果を踏まえて、実習校の指導担当教員と大学の指導担当教員の指導の下でリフレクションを実施する。授業実践課題研究のⅠ－Ⅲの成果と課題をまとめ、中間発表と討議を行う。そこでの議論を踏まえ、成果の整理と残された課題の確認を行う。なお、現職教員学生については授業実践開発実習Ⅱを実施する置籍校に大学の実習担当教員（研究者教員・実務家教員）が訪問し指導に当たる（１回の訪問で２回分相当の授業を実施）。 ※各教科の指導教員が担当。 国語（33 濵田秀行・30 河内昭浩）・社会（24 中尾敏朗・19 宮﨑沙織）・数学（14 澤田麻衣子・21 小泉健輔）・理科（26 益田裕充・31 栗原淳一）・美術（58 茂木一司・32 郡司明子）・音楽（27 吉田秀文・17 中里南子）・保健体育（4 木山慶子・11 鬼澤陽子）・技術（34 小熊良一）・家政（1 上里京子・13 小林陽子）・英語（9 渡部孝子・42上原景子）	共同
	授業実践課題研究Ⅳ	授業実践課題研究Ⅲのまとめを踏まえ、連携協力校の教育課題に対して共同実践プログラム２を作成する。授業実践開発実習Ⅱにおいて共同実践についてのデータを収集した上で、その分析と考察を実施する。その結果を踏まえて、実習校の指導担当教員と大学の指導担当教員の指導の下でリフレクションを実施する。授業実践開発実習Ⅰ・Ⅱと一連の授業実践課題研究について振り返りを行い、課題の発見・分析→課題解決の計画・実践・省察→改善策の計画・実施・省察というPDCAサイクルにそって、自身の学びの履歴を整理する。最終報告会を実施し・それぞれの学びを共有し学修の総括を行う。なお・現職教員学生については授業実践開発実習Ⅱを実施する置籍校に大学の実習担当教員（研究者教員・実務家教員）が訪問し指導に当たる（１回の訪問で２回分相当の授業を実施）。 ※各教科の指導教員が担当。 国語（33 濵田秀行・30 河内昭浩）・社会（24 中尾敏朗・19 宮﨑沙織）・数学（14 澤田麻衣子・21 小泉健輔）・理科（26 益田裕充・31 栗原淳一）・美術（58 茂木一司・32 郡司明子）・音楽（27 吉田秀文・17 中里南子）・保健体育（4 木山慶子・11 鬼澤陽子）・技術（34 小熊良一）・家政（1 上里京子・13 小林陽子）・英語（9 渡部孝子・42上原景子）	共同

共通5領域	コース別科目	特別支援教育におけるカリキュラムデザイン	特別支援学校の教育課程は、学習指導要領に規定される各教科と領域の内容範囲と系統性を基盤としながら、子どもの実態に応じて、また学校・学級の特長を生かしながら、教科別・領域別の指導、領域・教科を合わせた指導を適切に組合せて、編成される。本科目では、知的障害特別支援学校を中心に、教科別・領域別の指導ならびに領域・教科を合わせた指導の実施形態等の授業観察・分析、全教育課程ととらえたカリキュラムマネジメントに関する事例検討、関連する先行研究の講読による理論の裏付け等の活動を通して、学習指導要領に規定される内容が実際にどのように編成され、学習活動の中で展開しているのかを理解し説明することができるようになるよう、学習活動を行う。	
		特別支援教育における授業実践	特別支援学校における子どもの一人ひとりの実態に即した授業作りと実践の技術を習得するとともに、検討・討議したことを成果物にまとめ、対話や文章等によって他者に説明できるようにすることを目標とする。前半では、授業場面のビデオ分析による教授行動の事例検討を観点別に行い、授業と指導計画の基本構造を理解した上でそれを説明できるようにする。後半ではビデオ分析で検討した各観点を踏まえた授業の立案を行い、模擬授業の実施を通して授業における基本的な指導技術を身につけ、事後には自らの行った授業の改善を行う。	
		特別支援教育コーディネーターの役割と課題	特別支援教育コーディネーターとして、確かな幼児児童生徒の教育的ニーズの把握、支援計画の立案、相談者の主訴に応じた暖かい教育相談を行うための能力を培うことを目標とする。 特別支援教育コーディネーターの役割として校内の特別支援教育を推進できることのみならず・地域の学校等への支援ができる人材養成を目的としている。特別支援教育コーディネーターとしての役割や技能を知識として学ぶだけでなく、フィールドワークとして、小学校、中学校等の通常学級における巡回相談への参与観察、事例検討等を通して必要とされる力量を培う。	
		特別支援教育の制度と学校・学級経営	特別支援教育は通常教育以上に複雑な教育制度によって成り立っていると同時に、他機関との連携を前提に成り立っている。そのため、教員には制度を十分に理解した上で、制度を十分に活用した学校・学級経営が求められている。制度的な知識を学級経営の実践力に応用できる力を身につけることを目標とする。 具体的な事例を紐解きつつ、特別支援教育の制度について構造的に理解をし、その上で学校・学級経営において求められる実践的な応用力を養うことを目標とする。	
特別支援教育実践		特別支援教育の理論と実践	小・中学校の通常学級に在籍している発達障害のある児童生徒の特性理解、その特別な教育ニーズを的確に把握して個別の学習支援計画を立てる力、具体的な支援方法の知識及び特別支援教育コーディネーターの役割と実際に関する知識を身に付けることを目標とする。 特別支援教育の中でも、小・中学校の通常学級に在籍する児童・生徒に焦点を当て、個々の子どもの実態の把握、それに基づく個別の学習支援計画の立案、及び支援の方法について、実践事例を交えて具体的に学ぶ。	
		インクルーシブ教育の理論と課題	まず、世界のインクルーシブ教育の動向を概観した上で、日本のインクルーシブ教育の現状と課題について講義と討論を行う。 次に、肢体不自由児の実践事例を交えて、幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校におけるインクルーシブ教育の理論と課題について実践的な知識を身に付ける。 最後に、実践事例のうち、1つの事例を選定し、実態把握と個別の指導計画作成を実際に行い、受講者の実践的な指導力を高める。	
		特別支援教育と医療・福祉との連携	特別支援教育の中で障害種にかかわらず医療や福祉との連携が重要な児童生徒が増えている。教員に求められる地域コーディネートの一環として、教育をめぐる医療や福祉とを連携する力を身に着ける必要がある。教育現場における具体的な医療関係者や福祉関係者との連携について、障害児医療や障害児福祉の最新の現状を把握しつつ、実際の肢体不自由児や聴覚障害児の連携場面の事例を研究しながら、障害種にかかわらない総合的な連携を構築できる実践力を養うため、模擬場面を設定し学生・教員のディスカッションを進めていく。	

	重度・重複障害教育の実践と課題	特別支援学校に在籍している重複障害児の理解とともに、その特別な教育ニーズを的確に把握して個別具体的な支援方法を学び、実際に授業を構成していく力を身につけることを目標とする。授業の主な進め方としては、事例研究論文の講読に基ずく事例検討、または受講者が抱える支援事例の報告に基ずく事例検討である。その際、あわせ有する障害種や障害の重さに着目して個々の児童・生徒の実態把握の方法について吟味するとともに、実態把握に基づいた個々の児童・生徒に対する実践経過を映像資料を用いて報告し合い、支援及び授業作りの実際的な視点を身につけていく。	
実習	特別支援教育課題発見実習Ⅰ	公開研究会の参加や教育現場・福祉現場の視察する視点を持つことができることを目標とする。また、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害等の教育現場や福祉現場を視察することを通して、課題テーマを検討することができることを目標とする。 １年間を通して、２単位分（60時間）の視察や観察を計画する。27時間分として、県内外の特別支援学校の公開研究会等に参加する。研究者教員・実務家教員は適宜同行し指導を行う。33時間分として、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害等の教育現場や福祉現場を視察する。研究者教員又は実務家教員も同行し指導を行う。事前事後指導として公開研究会や教育福祉現場の視察を通して、学校及びそれを取り巻く環境の課題を明確にする協議を持つ。 ※毎回を全教員が担当。 3 金澤貴之・6 霜田浩信・29 吉野浩之・18 中村保和・12 木村素子・10 任龍在	共同
	特別支援教育課題発見実習Ⅱ	特別支援教育に沿った学校教育課題や実践課題を捉えることができる。学校教育課題や実践課題の解決のための計画と方法を策定することができることを目標とする。 現職大学院生、学部新卒大学院生ともに、①教育的ニーズに応じた個別支援、②ケース会議の参与、③授業実践または参与、④学校行事等への参加を通して、学校教育課題や実践課題の解決のための計画と方法を策定することができる実習とする。 大学の実習担当教員（研究者教員・実務家教員）が協力校に訪問し、協力校の実習担当教員と連携をとって指導に当たる。 ※毎回を全教員が担当。 3 金澤貴之・6 霜田浩信・29 吉野浩之・18 中村保和・12 木村素子・10 任龍在	共同
	特別支援教育課題解決実習	特別支援教育に沿った学校教育課題や実践課題を捉えることができる。学校教育課題や実践課題の解決のための計画と方法を策定することができる。群馬県教員育成指標としては、現職大学院生はキャリア段階Ⅱ、Ⅲを、学部新卒院生ではキャリア段階Ⅰに関する育成指標を達成目標とする。 1年次での特別支援教育課題発見実習ⅠⅡ、特別支援教育課題研究ⅠⅡによって設定された課題テーマの解決に向けた実践を行う。 大学の実習担当教員（研究者教員・実務家教員）が実習校に訪問し、実習校の実習担当教員と連携をとって指導に当たる。 ※毎回を全教員が担当。 3 金澤貴之・6 霜田浩信・29 吉野浩之・18 中村保和・12 木村素子・10 任龍在	共同
	特別支援教育課題研究Ⅰ	特別支援教育における授業実践や学校運営の課題を発見、把握し、その解決の方策について構想できることを目標とする。 特別支援教育課題発見実習Ⅰに連動する形で、それぞれの実習を省察しながら、特別支援教育の実践と理論を結びつけ、特別支援教育課題解決実習での課題テーマ（授業実践、学校運営）を構想する。 ※毎回を全教員が担当。 3 金澤貴之・6 霜田浩信・29 吉野浩之・18 中村保和・12 木村素子・10 任龍在	共同
	特別支援教育課題研究Ⅱ	特別支援教育課題発見実習ⅠⅡに連動する形で、それぞれの実習を省察しながら、特別支援教育の実践と理論を結びつけ、特別支援教育課題解決実習での課題テーマ（授業実践、学校運営）を設定する。また、特別支援教育における授業実践や学校運営に関する課題の分析、課題解決のための対応策の立案することを目標とする。 ※毎回を全教員が担当。 3 金澤貴之・6 霜田浩信・29 吉野浩之・18 中村保和・12 木村素子・10 任龍在	共同

課題研究	特別支援教育課題研究Ⅲ	特別支援教育における授業実践や学校運営に関する課題の分析、課題解決のための対応策の立案、実践に基づく省察の諸能力と技能を習得することを目標とする。 特別支援教育課題解決実習での実践を省察することを通して課題テーマの設定―課題解決の計画・実践・省察―改善策の計画・実践・省察といったPDCAサイクルに沿った実践を整理し、特別支援教育における実践モデルの開発を目指す。 ※毎回を全教員が担当。 3 金澤貴之・6 霜田浩信・29 吉野浩之・18 中村保和・12 木村素子・10 任龍在	共同
	特別支援教育課題研究Ⅳ	特別支援教育における授業実践に関する課題の分析、課題解決のための対応策の立案、実践に基づく省察、他者へのプレゼンテーションといった学校現場の課題解決に向けた一連の諸能力と技能を習得することを目標とする。 特別支援教育課題解決実習での実践を省察することを通して課題テーマの設定―課題解決の計画・実践・省察―改善策の計画・実践・省察といったPDCAサイクルに沿った実践を整理し、特別支援教育における実践モデルの開発を目指す。これら実践やモデルは実践報告書にまとめ、報告会を実施する。 ※毎回を全教員が担当。 3 金澤貴之・6 霜田浩信・29 吉野浩之・18 中村保和・12 木村素子・10 任龍在	共同